

平成23年度
(2011)

授 業 概 要
(授業シラバス)

徳島大学 全学共通教育

目次

| | |
|--|-----------|
| 第1章 前期 | 1 |
| 1) 【大学入門科目群】 (Category of Introductory Seminars on University Education) | 3 |
| 1.1 《大学入門講座》 (Introduction to University Education) | 4 |
| 2) 【教養科目群】 (Category of General Education Subjects) | 7 |
| 2.1 《歴史と文化》 (History and Culture) | 8 |
| 2.2 《人間と生命》 (Humanity and Life) | 9 |
| 2.3 《生活と社会》 (Living and Society) | 10 |
| 2.4 《自然と技術》 (Science and Technology) | 11 |
| 3) 【社会性形成科目群】 (Category of Social Communication Subjects) | 13 |
| 3.1 《ウェルネス総合演習》 (Integrated Seminar on Wellness) | 14 |
| 4) 【基盤形成科目群】 (Category of Formative Skills Subjects) | 15 |
| 4.1 《英語》 (English) | 16 |
| 4.2 《ドイツ語》 (German) | 18 |
| 4.3 《情報科学》 (Information Science) | 19 |
| 5) 【基礎科目群】 (Category of Basic Science Subjects) | 21 |
| 5.1 《基礎数学》 (Basic Mathematics) | 22 |
| 5.2 《基礎物理学》 (Basic Physics) | 23 |
| 6) 【学部が開放する授業題目】 (Subjects offered by Faculties) | 25 |
| 第2章 後期 | 27 |
| 1) 【教養科目群】 (Category of General Education Subjects) | 29 |
| 1.1 《歴史と文化》 (History and Culture) | 30 |
| 1.2 《生活と社会》 (Living and Society) | 32 |
| 1.3 《自然と技術》 (Science and Technology) | 33 |
| 2) 【社会性形成科目群】 (Category of Social Communication Subjects) | 35 |
| 2.1 《共創型学習》 (Creativity Development) | 36 |
| 3) 【基盤形成科目群】 (Category of Formative Skills Subjects) | 37 |
| 3.1 《英語》 (English) | 38 |
| 3.2 《ドイツ語》 (German) | 40 |
| 4) 【基礎科目群】 (Category of Basic Science Subjects) | 41 |
| 4.1 《基礎数学》 (Basic Mathematics) | 42 |
| 5) 【学部が開放する授業題目】 (Subjects offered by Faculties) | 43 |

第1章

前期

1) 【大学入門科目群】 (Category of Introductory Seminars on University Education)

大学入門講座

| | |
|--|---|
| 大学入門講座 (工・建設)(夜) ... (夜間主 (建)) / 教務委員会委員 / 前期 集中 | 4 |
| 大学入門講座 (工・機械)(夜) ... (夜間主 (機)) / 教務委員会委員 / 前期 集中 | 4 |
| 大学入門講座 (工・化学)(夜) ... (夜間主 (化)) / 教務委員会委員 / 前期 集中 | 4 |
| 大学入門講座 (工・生物)(夜) ... (夜間主 (生)) / 教務委員会委員 / 前期 集中 | 5 |
| 大学入門講座 (工・電気電子)(夜) ... (夜間主 (電)) / 教務委員会委員 / 前期 集中 | 5 |
| 大学入門講座 (工・知能)(夜) ... (夜間主 (知)) / 教務委員会委員 / 前期 集中 | 5 |

1.1 《大学入門講座》(Introduction to University Education)

大学入門講座 (Introduction to University Education)
 大学入門講座 (工・建設)(夜) (夜間主 (建))
 Introduction to University Education
 教務委員会委員/工学部 建設工学科
 1 単位 前期 集中

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 大学で学ぶ意味は何でしょうか。これを自ら探るには、大学生活全体を通じて自律的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までと異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とします。

【授業の概要】 この大学入門講座は、学部学科毎に授業が行われます。大学での学びを確かなものにするために、高校までとは異なって、「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につけられるよう各学部学科に応じて構成されています。各講義は、そのテーマに応じて適切な授業方法で行われます。大学では一般に講義形式の授業が主になりますが、この講座では、講義を聞き、その主題についてノートを取り、グループで討論をしたり、その経過・まとめを口頭で報告したり、また文章でレポートすることなどの、学習方法も取り入れて実践されます。それらを通じて、「自ら学ぶ」姿勢を身につける準備をして、今日、大学生が社会から求められている「知的技法」の一端を身につけることを目指します。

【キーワード】 導入授業、大学入門、オリエンテーション

【関連科目】 『学びの技』(1.0)

【到達目標】 以下「【授業の計画】」のテーマについて、その概要や問題点を理解し、友人たちや教員と討論ができ、文章としてまとめられること、また皆の前で報告発表ができること。

【授業の計画】 1. 心と体の健康 保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用・健康管理法などについて説明する。 2. 読書のすすめ・対話の重要性 コミュニケーションの方法を概説し、自分の意見を構築することの大切さ、対話能力が重要であることを認識する。 3. 学びのしくみ・学習支援室 学びのしくみについて説明し、自己学習の重要性を理解する。さらに学習支援室の上手な利用方法を紹介します。4 年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。 4. 施設見学 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法等を紹介します。 5. 建設工学科のおいたちと教育目標 本学の建設工学科の創立から現在までの歴史を紹介し、本学科の教育目標を建設技術者に求められる資質と関連づけて説明する。 6. 建設関連施設の見学 建設関連施設を 1, 2 箇所見学し、ものづくりの流れや、大学で習得すべき事項等について説明する。 7. 防災センターの見学 徳島県立防災センターを見学し、防災への取り組み事例等を介して、大学で習得すべき事項等について説明する。 8. 自分の将来像と大学生活 グループで各自の将来像や夢について語り、夢を実現するために如何に大学で学ぶかについて討議し、検討結果を発表する。

【教科書】 工学部『「学びの技」はじめの一歩』、その他必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無 (欠席等の場合は、課題のレポートを課す)

【講師へのメッセージ】 大学で何を何故学ぶのか、目標をたて大学生活を過ごしましょう。

【WEB 頁】 <http://ksys.ce.tokushima-u.ac.jp/mizuguchi/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221334>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 教務委員会委員

大学入門講座 (Introduction to University Education)
 大学入門講座 (工・機械)(夜) (夜間主 (機))
 Introduction to University Education
 教務委員会委員/工学部 機械工学科
 1 単位 前期 集中

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 大学で学ぶ意味は何でしょうか。これを自ら探るには、大学生活全体を通じて自律的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までと異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とします。

【授業の概要】 この大学入門講座は、大学での学びを確かなものにするために、高校までとは異なって、「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につけられるよう構成されています。各講義は、そのテーマに応じて適切な授業方法で行われます。大学では一般に講

義形式の授業が主になりますが、この講座では、講義を聞き、その主題についてノートを取り、グループで討論をしたり、その経過・まとめを口頭で報告したり、また文章でレポートすることなどの、学習方法も取り入れて実践されます。それらを通じて、「自ら学ぶ」姿勢を身につける準備をして、今日、大学生が社会から求められている「知的技法」の一端を身につけることを目指します。

【キーワード】 機械工学科、履修計画、大学生生活

【到達目標】 以下「【授業の計画】」のテーマについて、その概要や問題点を理解し、友人たちや教員と討論ができ、文章としてまとめられること、また皆の前で報告発表ができること。

【授業の計画】 1. 健康的に学生生活を送るために 保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用・生活習慣病を予防するための健康管理法とその重要性・及び注意が必要な感染症について説明する。 2. 施設見学 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法などを紹介する。 3. 附属図書館からのオリエンテーション 4. 学びの相談について 5. 学生委員からの諸注意 6. 教務委員からの諸注意 7. 履修計画の作成 8. 履修計画の作成 9. 履修登録 10. 読書のすすめ・英語のすすめ コミュニケーションのために、自分の意見を構築することの大切さ、さらに国際社会で活躍するために英語能力が重要であることを認識する。 11. 学びと倫理 人間また技術者として、何を身に付けなければならないか、その基本を理解する。 12. レポートの書き方 その意味と書き方について説明する。またプレゼンテーションの重要性を説く。 13. 機械工学の生い立ち、教育理念・教育目標・教育方針を説明し、これから 4 年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。 14. 進路の探し方 これからの生き方、進路、就職等の状況と心構えを説明する。 15. パソコンを使う 情報を収集・発信するためのテクニクを紹介する。

【教科書】 工学部『「学びの技」はじめの一歩』、その他必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 ()

【講師へのメッセージ】 大学で何を何故学ぶのか、目標をたて大学生活を過ごしましょう。授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 1 時間の予習・復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221335>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 教務委員会委員

【備考】 機械工学科・教務委員

大学入門講座 (Introduction to University Education)
 大学入門講座 (工・化学)(夜) (夜間主 (化))
 Introduction to University Education
 教務委員会委員/工学部 化学応用工学科
 1 単位 前期 集中

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 大学で学ぶ意味は何でしょうか。これを自ら探るには、大学生活全体を通じて自律的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までと異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とします。

【授業の概要】 大学で学ぶために必要な術を、化学応用工学科の教員を始め、徳島大学の教員が各方面から講述します。

【キーワード】 学生生活、学習、コミュニケーション

【到達目標】 大学での学びに関する全体像が把握できること。

【授業の計画】 1. 健康的に学生生活を送るために 保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用・健康管理法などについて説明する。 2. 大学で学ぶとはどういうことか、化学応用工学科で学ぶとはどういうことかについて考え、学ぶために必要な事柄を紹介する。 3. 情報を検索する方法として、基本的なインターネットの利用方法を紹介します。 4. 施設見学 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法などを紹介する。 5. 読書のすすめ・コミュニケーションの方法を概説し、自分の意見を構築することの大切さ、対話能力が重要であることを認識する。 6. 学びのしくみについて説明し、自己学習の重要性を理解する。さらに学習支援室の上手な利用方法を紹介します。これからの 4 年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。 7. ものづくりのすすめ (創成学習開発センターと創成科目を紹介する) 8. コミュニケーションの取り方の向上を図り、学生と学生、学生と教員の相互理解を深める。

【教科書】 「学びの技」はじめの一歩

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無 (欠席等の場合は、課題のレポートを課す)

【講師へのメッセージ】 大学で何を何故学ぶのか、目標をたて大学生活を過ごしましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221336>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 教務委員会委員

大学入門講座 (Introduction to University Education)
大学入門講座 (工・生物)(夜) (夜間主 (生))
Introduction to University Education
 教務委員会委員/工学部 生物工学科
 1 単位 前期 集中

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 大学での学習・生活は高校までとは異なり、積極的に取り組む自己責任が要求される。自己責任の達成には、入学から卒業するまでの間に生物工学科で何を学び(学習目標)、学んだことを将来どのように生かすか(将来像)をしっかりと持つことが必要である。これからの勉学や健康的な生活を送るうえで、基本的に重要な事柄を学び、大学での学習と生活の方法、学習目標と将来像などについて全体的に理解することを目的とする。

【授業の概要】 授業では、履修の手引(講義シラバス)、学生生活の手引、学びの技はじめの一步をテキストとして使い、教員の経験を織りまぜながら、生物工学科の教育目標、カリキュラム、学習方法、成績評価、大学生に要求される能力、健康的な学生生活、また卒業後の進路について説明するとともに、討論を通じて学生自身の大学での学習目標や自分の将来像などについて考える。

【到達目標】 大学における健康で有意義な生活を達成するための学び方について理解し、将来について考える。

【授業の計画】 1. 大学生とは? 生物工学科とは? 大学院とは? 教員や先輩の対談を含めて学習する。 2. 生物工学科の教育目標とカリキュラムについて学習する。 3. 全学共通科目と専門科目、単位制、Web 登録、講義ノートのとり方、レポートのまとめ方、評価方法、ポートフォリオの作り方などについて学習する。 4. 施設見学 常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法などを学習する。 5. 学びのしくみ・学習支援室の紹介、教育の理念・目標や教育方針、これから 4 年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。 6. 保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用、心と体の健康管理法とその重要性、及び注意が必要な感染症について学習する。 7. 読書の重要性、またコミュニケーションのために自分の意見を構築して発表することの大切さ、さらに国際社会で活躍するために英語能力の重要性について認識する。 8. 大学生活における目標と自分の将来像について考える。

【教科書】 「学びの技」はじめの一步 徳島大学工学部導入教育テキスト、平成 18 年度「履修の手引」講義概要(シラバス)

【成績評価の方法】 到達目標の達成度をレポート、プレゼンテーションによって評価する。

【再試験の有無】 無

【講師へのメッセージ】 何のため何をどのように学ぶのか考え、有意義な大学生活を送ろう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221339>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 教務委員会委員

大学入門講座 (Introduction to University Education)
大学入門講座 (工・電気電子)(夜) (夜間主 (電))
Introduction to University Education
 教務委員会委員/工学部 電気電子工学科
 1 単位 前期 集中

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 大学で学ぶ意味は何でしょうか。これを自ら探るには、大学生活全体を通じて自律的な学びの姿勢を確立していく必要があります。今後の大学での学びを確かなものにするために、高校までと異なった学習の姿勢や方法の概略、自律的な大学生活を送る方策の概略を把握することを目的とします。

【授業の概要】 大学入門講座は、大学での学びを確かなものにするために、高校までとは異なって、「教わる授業から自ら学ぶ授業」という学習の姿勢や方法を身につけられるよう構成されています。電気電子工学科の紹介をはじめ、国際化も視野に入れた各自の将来像を描き、それに向かうための目標について考えます。また、充実した大学生活を送るための種々の情報を修得し、それらを通じて、「自ら学び」「自ら考える」姿勢が身につくことを目標とします。

【キーワード】 電気電子工学科、大学生活、履修計画、履修登録

【到達目標】 大学での学びのしくみを理解し、何をなぜ学ぶかを知り、学び方についての知識、技術を身につけること。

【授業の計画】 1. 健康的に大学生活を送るために保健管理センターの紹介、酒タバコの弊害と効用・健康管理法などについて説明する。 2. 読書のすすめ・コミュニケーションの方法を概説し、自分の意見を構築することの大切さ、対話能力が重要であることを認識する。 3. 学びのしくみについて説明し、自己学習の重要性を理解する。さらに、学習支援室の上手な利用方法を紹介します。4年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。 4. 電気電子工学科とは:電気電子工学科の紹介、カリ

キュラムの概要および教育目標との関係を理解する。 5. 電気電子技術者としての将来像および各自の学習目標について考え、自分と社会の将来像を描いてみる。 6. 全学共通教育の履修・学習方法:全学共通教育の意義・目的、単位とは何か等を理解し、履修・学習方法を考え、履修計画を作成する。 7. 専門教育科目の履修・学習方法:各学年での専門教育学習の意味と学習方法を説明し、大学院を含めた6年間の一環教育としての履修・学習方法を考える。 8. 学生生活の道しるべ 有意義な学生生活を送るための情報を活用する 9. 施設見学:常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法などを紹介する。

【教科書】 工学部『「学びの技」はじめの一步』、『履修の手引き』、『学生生活の手引き』、その他必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法】 授業への参加の姿勢と到達目標の達成度により評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無(欠席等の場合は、課題のレポートを課す)

【講師へのメッセージ】 大学で何を何故学ぶのか、目標をたて大学生活を過ごしましょう。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221337>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 教務委員会委員

大学入門講座 (Introduction to University Education)
大学入門講座 (工・知能)(夜) (夜間主 (知))
Introduction to University Education
 教務委員会委員/工学部 知能情報工学科
 1 単位 前期 集中

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『総合科目』)

【授業の目的】 大学では、高校までとは異なった、学ぶ姿勢が必要である。これからの学習において重要となる様々なことについてその全体像を把握し、深く学ぶために必要な事柄を理解してもらうことを目的とする。

【授業の概要】 大学における授業の形態、学び方、発表技術、および、レポートの作成技術について説明する。

【キーワード】 大学入学、学生生活、履修登録

【到達目標】 大学で何をなぜ学ぶかを知り、その学び方についての知識、技術を身に付けること。

【授業の計画】 1. 施設見学常三島キャンパスの主要な施設を実際にまわり、利用方法などを紹介する。 2. 健康的に大学生活を送るために保健管理センターの紹介・酒タバコの弊害と効用・生活習慣病を予防するための健康管理法とその重要性・及び注意が必要な感染症について説明する。 3. 読書のすすめ・英語のすすめ コミュニケーションのために、自分の意見を構築することの大切さ、さらに国際社会で活躍するために英語能力が重要であることを認識する。 4. 学びのしくみ・学習支援室 教育の理念・目標や教育方針、そして学習支援室の上手な利用方法を紹介します。これから4年間の「学びの設計」を考える基盤を作る。 5. スライドを作成して効果的に発表するためのプレゼンテーション・スキルを学ぶ。 6. PowerPoint を用いたスライドの作成法を学ぶ。 7. レポートを分かりやすくまとめるためのテクニカルライティング・スキルを学ぶ。 8. Latex を用いたレポートの作成法を学ぶ。 9. 教員と大学院学生との小グループ討論 1. 大学で大事なことは何か? 10. 教員と大学院学生との小グループ討論 2. 学習及び学生生活上の指導、大学生活の上手な過ごし方。 11. 教員と大学院学生との小グループ討論 3. 4年間のマイルストーン、講義概要・創成科目の説明、就職・進路。 12. 履修方法の説明・指導、時間割の組み方。 13. 履修登録システムのガイダンス。 14. Web 履修登録 1. 15. Web 履修登録 2. 16. 質疑応答。

【教科書】

◇ 履修の手引き、「学びの技」はじめの一步、学生生活の手引き

◇ 配布するプリント

【成績評価の方法】 授業への参加姿勢とレポートにより評価し、単位を認定する。

【再試験の有無】 無

【講師へのメッセージ】 新入生は必ず受講すること。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221338>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 教務委員会委員

2) 【教養科目群】 (Category of General Education Subjects)

歴史と文化

| | |
|---|---|
| 日本の古代史 ... (夜間主 (全 1~4 年))/衣川/前期 月 13・14..... | 8 |
| 日本図の歴史 ... (夜間主 (全 1~4 年))/平井/前期 月 13・14..... | 8 |
| 日本中近世文学 II ... (夜間主 (全 1~4 年))/原水/前期 木 11・12..... | 8 |

人間と生命

| | |
|---|---|
| 社会観の探究 ... (夜間主 (全 1~4 年))/石田/前期 月 13・14..... | 9 |
| 知覚の心理学 ... (夜間主 (全 1~4 年))/濱田/前期 木 11・12..... | 9 |

生活と社会

| | |
|---|----|
| 現代社会と法 ... (夜間主 (全 1~4 年))/上原/前期 木 11・12..... | 10 |
|---|----|

自然と技術

| | |
|--|----|
| 日本の植物の多様性 ... (夜間主 (全 1~4 年))/山城/前期 木 11・12..... | 11 |
|--|----|

2.1 《歴史と文化》 (History and Culture)

歴史と文化 (History and Culture)

日本の古代史

Ancient Japanese History

衣川仁・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2単位 前期 月 13・14

(夜間主 (全1~4年))

(平成19年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『日本史』)

【授業の目的】 歴史といえば、たとえ日本の歴史であったとしても、自分にとって遠い昔の無関係な話として受け取られがちです。確かにそうですが、その遠い昔から存在し、現在に影響を与えているかも知れないものは結構多いのです。そういった要素を見つけることで、歴史はぐっと身近なものになるでしょう。また、史料を細かく読み込むことで、今までは感じる暇もなかった当時の人々の思いにまでたどりつくことができます。それは覚えた年号からは分からない「生きた歴史」です。そこに行き着くには、柔軟に考えることが必要です。歴史は考える学問だということを踏まえ、その考え方を知ってもらうこと、これがこの授業の目的です。

【授業の概要】 日本の古代史に関わる重要なトピックを概説し、その歴史的特質を考えます。時期としては6世紀から11世紀あたりまでを、皇統をめぐる争いや律令体制下の政治、更には社会・文化も視野に入れたらとなります。その際には、『日本書紀』や『続日本紀』など、史料・資料に基づいて説明します。

【キーワード】 天皇、律令、仏教、怨霊

【先行科目】 『歴史と文化/戦国時代から近世社会への変化』(1.0)

【関連科目】 『歴史と文化/古代・中世日本の社会』(0.5)

【到達目標】 日本古代の政治と社会の歴史をおさえる。そこに深く関わった権力(特に天皇)の役割を理解する。これらを含む当該期の歴史的特質を考える。

【授業の計画】 1. なぜ仏教は広まったのか 2. 「壬申の乱」の首謀者は誰か 3. 「日本」はどのように作られたか 4. なぜ古代には女帝が立てられたのか 5. 誰が長屋王を殺したのか 6. なぜ大仏は造られたのか 7. なぜ怨霊は生まれたのか 8. 蝦夷とは何か 9. 「葉子の恋」をどう考えるべきか 10. 「国風文化」の底にあるものは何か 11. なぜ陽成天皇はクビになったのか 12. なぜ菅原道真は左遷されたのか 13. 平安時代の社会問題とは何か 14. なぜ平安京では火災が多発したのか 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】 教科書は使用せず、プリント等を配布する予定です。参考書等は授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法】 期末試験を中心に評価しますが、出席やコメント・小テストなど、平素の授業への取り組みも勘案します。

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 歴史は考える学問だといった様に、実際に考えながら受講して欲しいと思います。ですから、予習や復習も必要です。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221340>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 衣川 (088-656-7153, kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜10時30分~12時)

歴史と文化 (History and Culture)

日本図の歴史

Pre-Modern Japanese Maps

平井 松午・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2単位 前期 月 13・14

(夜間主 (全1~4年))

(平成19年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『地理学』)

【授業の目的】 様々なスケールの「地域」を研究対象とする地理学にとって、「地域」に関する資料をどのように分析解釈するかは、重要な研究手続となる。この授業では、古代から近代までの各時代ごとに描かれた各種の日本図を手がかりに、国土・世界に対する日本人の地理観の一端を紹介するとともに、日本図の変遷にみる科学的側面について歴史地理学的見地から考察していくことも目的としている。

【授業の概要】 授業では、古代から幕末・明治に至るまでの日本を描いた多様な古地図を、プリント、パソコンによるデジタルデータなどを用いて紹介する。取り上げるおもな古地図は、日本およびその周辺地域を題材としたもので、絵図の記載内容や画像表現から、絵図作成の目的や、そこに描かれている地域像・社会背景などについて解説する。

【キーワード】 地理学、歴史地理学、古地図、地理情報システム

【関連科目】 『生活と社会/暮らしと地図』(0.5)

【到達目標】 絵図が作成されてきた時代ごとの社会背景と技術的発展過程の相互関係が理解できること。

【授業の計画】 1. 見取図と実測図 -絵図と地図の違い- 2. 古代律令体制と国郡図 3. 最古の日本図「行基図」-中世の日本図- 4. 「行基図」

と「海山潮陸図」-近世初頭の日本図- 5. 「五天竺図」と「世界図屏風」-日本人の世界観- 6. 幕藩体制の確立と幕府撰国絵図 7. 近世阿波の国絵図-6期の国絵図- 8. 国絵図と日本図総図 9. 道中絵図と「改正日本輿地路程全図」-普及版日本図- 10. 蘭学の発達と世界地理書の刊行 11. 紅毛流規矩術と実測分間絵図 12. 伊能忠敬の全国測量 13. 「大日本沿海輿地全図」とシーボルト事件 14. 間宮林蔵と北方図 15. 期末試験 16. 「日本図の歴史」授業のまとめ

【教科書】

◇教科書は使用せず、授業の際に資料プリントを配付する。なお、手近な参考図書としては次のものがある。

◇久武哲也・長谷川孝治編『改訂増補 地図と文化』地人書房、織田武雄『地図の歴史 日本篇』講談社新書

【成績評価の方法】 授業中に数回行う小テストや課題レポート、授業への取り組み状況などにもとづく平常点での評価と、期末試験結果による評価を併用して総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講へのメッセージ】 徳島大学附属図書館のホームページ (<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/>)の「古地図・絵図 (貴重資料高精細デジタルアーカイブ)」には、図書館が所蔵する各種絵図 (国絵図、伊能図、世界図など) が掲載されているので、参照のこと。

【WEB 頁】 <http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/>

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221341>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 平井 (2116, 088-656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp)

歴史と文化 (History and Culture)

日本中近世文学 II

Medieval Japanese Literature 2

原水 民樹・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2単位 前期 木 11・12

(平成19年度以前の授業科目:『歴史と文化』)

(平成16年度以前 (医保は17年度以前)の授業科目:『日本文学』)

【授業の目的】 日本人である以上、過去の日本文化についての知識を持つべきことは当然である。外国に留学した学生が留学先で日本文化についての質問を受け何も答えられずに恥をかいたというのはよく聞く話である。本授業では、いくつかの落語を取り上げ、もともととなった古典作品を紹介し、その形成のされ方を説明する。よって、日本文化に流れるユーモア精神を理解させる。

【授業の概要】 いくつかの落語を取りあげ、そのもととなった古典作品を紹介して、落語の形成のされ方を考える。

【キーワード】 落語、日本古典文学、近世庶民の生活

【到達目標】 落語の形成過程を探ることで、日本人のユーモアやウィットを理解する。

【授業の計画】 1. 落語についての基本的な説明 2. 平家物語・謡曲景清・新話笑眉などと落語の景清 3. 義経記・歌舞伎義経千本桜と落語猫の忠信 4. 義経記・謡曲船弁慶と落語の船弁慶 5. 義経・弁慶説話と落語こぶ弁慶・青葉 6. 近江八景と落語の近江八景 7. 和歌「せはやみ」と落語の崇徳院 8. 和歌「ちはやぶる」と落語のちはやぶる 9. 怪談皿屋敷と落語皿屋敷 10. 醒睡笑と落語のこほめ 11. 狂言はねかわ・十返舎一九へそくりかねと落語の金明竹 12. 十返舎一九世中貧福論と落語のはてなの茶碗 13. 江戸小話と落語の一目上がり 14. 好色五人女・難波戦記と落語のくしゃみ講釈 15. テスト 16. 総括

【教科書】 資料はこちらで用意する。

【成績評価の方法】 学期末試験 (50%)、毎回の質疑の内容・受講姿勢 (50%) を総合して判断・評価する

【再試験の有無】 無

【受講へのメッセージ】 文学という存在を少しは真面目に考える学生、日本の歴史・古典文学に関心のある学生に受講してもらいたい。単位取得だけが目的の学生には退屈で辛いだけ。毎回、講義内容についての質疑を課す。教科書を購入しない者は受講を認めない。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221342>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 原水 (1号中棟1階, 088-656-7113, haramizu@ias.tokushima-u.ac.jp)

2.2 《人間と生命》 (Humanity and Life)

人間と生命 (Humanity and Life)

社会観の探究

(夜間主 (全 1~4 年))

Inquiry for vision of society

石田 三千雄・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2 単位 前期 月 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『哲学』)

【授業の目的】 グローバル化によって、世界は全体化された。グローバル化によって、力(物理的力、政治的力、精神的な力)の支配が世界のすみずみにまで及んでいく状況になった。人間が人間性を喪失し、自然も物理的自然へと回帰している。魂を喪失した人間と物理的な自然との間には和解も調和も存在しない。グローバル化した世界での思考と自由の倒壊に抗して、持続可能な社会を形成し、グローバルな社会を生きる倫理的な視点を再興することを考える。

【授業の概要】 グローバル化された世界の課題と希望を探究し、グローバル化の経済的側面・政治的側面、グローバル化された世界における人間の権利を考える。グローバル化に関わるテクノロジー、南北間格差や環境の政治、福祉国家のあり方、帝国やナショナリズムのあり方、グローバル化とフェミニズム、メディアのあり方、テロリズムの問題、平和の文化を考える。

【キーワード】 グローバル化、人権、国家

【先行科目】 『人間と生命/認知哲学』(1.0)

【到達目標】 グローバル化された現代世界のあり方、およびその背後にある諸問題について、哲学的・倫理的に考える力を身につける。

【授業の計画】 1. はじめに—授業全体の説明 2. グローバル世界の課題と希望 3. 自然の法と倫理の理法 4. 人権とヒューマンイズムの未来 5. 歓待の権利と歓待の倫理 6. テクノロジーと国家のゆくえ 7. テクノロジー・ナショナリズム・主権国家 8. 南北格差と環境の政治 9. 福祉国家と管理社会 10. 帝国とナショナリズム 11. グローバル化とフェミニズム 12. 大衆とメディア 13. テロリズムの闇と恐怖 14. グローバリズム対反グローバリズム 15. 平和の文化に向けて 16. 総括授業

【教科書】 石崎嘉彦・太田義器他『グローバル世界と倫理』ナカニシヤ出版、2008年、1995円

【成績評価の方法】 学期末試験(40%)、小レポート(30%)、授業への取り組み状況(30%)などにより総合的に評価する(ただし、評価割合の目安は括弧内のパーセントである)。

【再試験の有無】 再試験有り

【受講者のメッセージ】 グローバル化を考える基礎的視野を養ってください。質問等は、メールでも受け付けます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221343>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 石田 (2328, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日14~15時)

【備考】 授業計画は一部変更があるかもしれません。

人間と生命 (Humanity and Life)

知覚の心理学

(夜間主 (全 1~4 年))

Introduction to Perception

濱田 治良・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2 単位 前期 木 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『人間と生命』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『心理学』)

【授業の目的】 私たちを取り巻いている物理的環境と私たちが見聞きした結果である主観的な知覚的世界の間には大きな違いがある。私たちは外界・環境をどのように知覚しているのだろうか?この講義では認識や行動の出発点である知覚の基礎について論じ、未知なる人間、我々自身を理解するための科学的試みを紹介する。その為に、代表的な錯視現象を通して「人間が外界をいかに知覚し、認識しているのか」を論じ、科学の歴史をたどりながら錯視の成立機序とその意義を考察する。また心理学的・人間工学的見地から人間の知覚を考察する。

【授業の概要】 錯覚や錯視は私たちの目の不完全さを示しているのではなく、人間の知覚の機能の素晴らしさを示している。そこで日常生活で経験する知覚現象を心理学的・人間工学的に考察する。また、講義の一環として、授業中に知覚心理学の実験実習を行い、各自のデータを分析して簡単なレポートを提出してもらいます。

【キーワード】 人間の知覚

【到達目標】 人間の知覚に関する現象や実験を通して得られたデータを理解し、それらから導き出された基礎的理論や考え方を理解する。

【授業の計画】 1. 授業は概ね次の 5 章から構成され、下記のそれぞれの項目を中心に講義を進めます。なお 16 回目に総括授業を行います。 2. 1. 輪郭線知覚 3. マッハ・バンドとクレイク・オブライエ

ン効果 4. 2. 主観的輪郭線 5. 主観的輪郭線と透明視 6. 3. 明るさ知覚 7. 明るさの対比・同化・恒常性 8. 4. 幾何学的錯視 9. 大きさ錯視における対比と同化、大きさ・距離不変仮説 10. 5. 知覚の体制化 11. 図と地・群化の要因

【教科書】 資料を配布しながら講義を進める。

【参考書等】 参考書として松田隆夫著「視知覚」培風館を勧める。

【成績評価の方法】 中間試験(40%)、期末試験(40%)、レポート、出席率により総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 知覚心理学に関心のある意欲的な学生の受講を歓迎します。VTRも使用して講義内容を補足します。配布資料と講義内容及び各自の自習に基づいたノートを作成してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221345>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 濱田 (3S02, 088-656-7195, hamada@ias.tokushima-u.ac.jp)

2.3 《生活と社会》 (Living and Society)

生活と社会 (Living and Society)

現代社会と法

(夜間主 (全 1~4 年))

Modern Society and Law

上原 克之・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

2 単位 前期 木 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『法律学』)

【授業の目的】「社会あるところに法あり。」われわれの市民生活は法めきには考えることはできないほど、それを意識するかしないかはともかく、法に囲まれて生活している。法とは一定の、社会を見る視点であり、本授業では、法的思考を身につけることにより、現代社会をこれまでとは違った観点から見るができるようになることを目的とする。

【授業の概要】はじめに法とは何か、近代法とは何か、また、法が他の社会規範とどのように区別されるのかを明らかにしたうえで、われわれの社会生活に関係する財産法、家族法、刑法等についての具体的な問題を検討していく。

【キーワード】法、道徳、財産、家族、犯罪

【関連科目】『生活と社会/経済と法』(0.5), 『生活と社会/家族法の諸問題』(0.5)

【到達目標】

1. 法的な諸概念を正確に理解すること
2. 法的な論理を理解すること
3. 法的なものを見方を文章で説得的に展開することができること

【授業の計画】1. 法とは何か 1) 法の分類 2. 法とは何か 2) 近代法の観念 3. 法とは何か 3) 法と道徳 4. 財産と法 1) 法的人格 5. 財産と法 2) 財産権 物権 6. 財産と法 3) 財産権 債権 7. 財産と法 4) 財産権 物権と債権の関係 8. 家族と法 1) 家族法の推移 9. 家族と法 2) 婚姻をめぐる法 10. 家族と法 3) 離婚と法 11. 家族と法 4) 相続 12. 犯罪と法 1) 概説 13. 犯罪と法 2) 罪刑法定主義 14. 犯罪と法 3) 刑法の機能 15. 犯罪と法 4) 刑事訴訟手続 16. 犯罪と法 5) 刑事訴訟手続の諸問題

【教科書】

- ◇ 教科書は特に指定しないが、法令集(六法)を持参すること。
- ◇ 【参考書等】については、適宜指示する

【成績評価の方法】筆記試験を中心とし、小テスト、授業への取り組みなど(20%)を総合的に評価する。

【再試験の有無】無

【講師へのメッセージ】授業はあくまでも出発点であると考え、授業だけに満足せず自ら積極的に学ぶ姿勢を大切にしてください。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221611>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 上原 (088-656-7173, uehara@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 前期:水曜日 12時から13時 総合科学部1号館3階(行政法研究室))

2.4 《自然と技術》 (Science and Technology)

自然と技術 (Science and Technology)

日本の植物の多様性 (夜間主 (全 1~4 年))

Introduction to Botany

山城 考・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2 単位 前期 木 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『生物学』)

【授業の目的】 日本列島は南北に長い形をしており、亜熱帯から寒帯におよぶ気候環境が見られる。日本の植物相は非常に豊かで、約 5000 種の維管束植物が知られている。本講義では日本の植物相の多様性とその保全について解説をおこなう

【キーワード】 高等植物、固有種、植物区系、日本列島、多様性

【到達目標】 日本の植物相の複雑な成り立ちとその多様性を知識として習得させ、身近な植物や地域の自然保護の大切さに関心を持たせることを目的としている

【授業の計画】 1. 生物の多様性とそれを制限する要因 2. 植物の生活 (個体のあり方) 3. 植物の戦略 (適応と繁殖) 4. 日本の植物相の形成に影響をもたらしたもの 5. 高山、針葉樹林、夏緑樹林を構成する植物 6. 照葉樹林を構成する植物 7. 日本海側と太平洋側の植物の分化 8. 湿地帯と東海丘陵要素 9. ソハヤキ要素と阿哲要素 10. 海洋島 (小笠原) の植物 11. 大陸島 (琉球列島) の植物 12. 雑草の生活 13. 帰化植物とその危険性 14. 野生植物の保全 15. レポートの課題提示 16. 総括授業

【成績評価の方法】 小テストと授業への取り組み。

【再試験の有無】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221344>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 山城 (088-656-7257, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp)

3) 【社会性形成科目群】 (Category of Social Communication Subjects)

ウェルネス総合演習

ウェルネス総合演習 ...(夜間主(全1年))/行實/前期 月 11・12..... 14

3.1 《ウェルネス総合演習》(Integrated Seminar on Wellness)

ウェルネス総合演習 (Integrated Seminar on Wellness)
ウェルネス総合演習 (夜間主 (全1年))
Integrated Seminar on Wellness
行實 鉄平・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2 単位 前期 月 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『ウェルネス総合演習』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『健康スポーツ実習』)

【授業の目的】「ウェルネス」とは、疾病や障害の有無にかかわらず、心の豊かさ・生命の尊厳を大切に、食・身体活動・休養・睡眠をバランスよく取り入れて生活習慣を改善し、生活の質 (QOL) を高めて生涯にわたるより健康なライフスタイルの確立を目指す生き方 ((財) 日本ウェルネス協会) として捉えられている言葉である。本授業では、そのなかでも運動・スポーツと QOL との関係性を体験的に学習することにより、ウェルネスの理解を深めていくことを目的としている。また、運動・スポーツを通して履修者相互の関係を深め、社会人基礎力として必要なコミュニケーション能力を養うことも目的としている。

【授業の概要】この授業では、形態・身体組成、健康体力、運動と栄養について講義をするとともに、それらの測定・調査方法やトレーニング法を紹介する。加えて、生涯スポーツとして楽しむことのできるスポーツ (バドミントン) も体験してもらおう。また、健康づくりやスポーツ振興に関わる仕組みについての講義も行う。学生には、これらを通して積極的に健康的な生活を設計し実践する能力、いわゆる「ウェルネス実践能力」を養ってもらいたい。

【キーワード】ウェルネス、生涯スポーツ、スポーツとの多様な関わり (する・みる・ささえる)

【到達目標】

1. “ウェルネスとは何か?”, またその必要性を理解する。
2. 自らの身体理解と、その測定・調査・トレーニング方法を理解する。
3. 健康づくりやスポーツを日常生活で実践し、豊かな人生を過ごそうとする積極的な姿勢を身につける。
4. 他者や集団と積極的にかかわり、楽しみの場を演出し、コーディネートできるようにする。
5. 健康づくりやスポーツ振興に関わる仕組みを理解する。

【授業の計画】1. オリエンテーション 2. ウェルネスとは!(健康づくり概論) 3. 形態・身体組成の測定法 4. 体力・持久力の測定法 5. 健康・栄養調査 6. バドミントン (ラケットを使いこなす) 7. “ (シャトルコントロール) 8. “ (各種フライト) 9. “ (フットワーク) 10. “ (総合練習:シングルス) 11. “ (総合練習:シングルス) 12. “ (総合練習:ダブルス) 13. “ (総合練習:ダブルス) 14. 健康づくりやスポーツ振興に関わる仕組みとは! 15. 期末試験 16. 授業の総括

【教科書】基本的に使用せず、随時プリントを配布する。

【成績評価の方法】「出席 60%」「受講態度 10%」「試験 30%」の 3 つの観点から総合的に評価する。

【再試験の有無】無

【講師へのメッセージ】これから歩む人生と健康、またはライフスタイルとの関わりについて自らが考え、積極的な姿勢で授業に取り組む、学生の受講を希望する。体調には充分配慮し、授業に臨むこと。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221348>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 行實 (スポーツ経営学研究室, 088-656-7286, yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜午後)

4) 【基盤形成科目群】 (Category of Formative Skills Subjects)

基盤英語

| | |
|---|----|
| 基盤英語 ... (夜間主 ((建機電)1年)) / 貝沼 / 前期 水 13・14 | 16 |
| 基盤英語 ... (夜間主 ((化生知)1年, (機)2年)) / 米原 / 前期 水 13・14 | 16 |
| 基盤英語 ... (夜間主 ((建電)1年)) / 上野 / 前期 火 11・12 | 16 |
| 基盤英語 ... (夜間主 ((化生知)1年)) / 魚崎 / 前期 火 11・12 | 16 |

主題別英語

| | |
|---|----|
| 主題別英語 ... (夜間主 ((建化生知)2年, 全3・4年)) / 座喜 / 前期 火 13・14 | 17 |
|---|----|

発信型英語

| | |
|--|----|
| 発信型英語 ... (夜間主 ((建)2年, (機)3年, 全3・4年)) / バトリック / 前期 火 13・14 | 17 |
| 発信型英語 ... (夜間主 ((化電知)2年, 全3・4年)) / ワイス / 前期 火 13・14 | 17 |

ドイツ語入門

| | |
|--|----|
| ドイツ語入門 ... (夜間主 (全1~4年)) / 井戸 / 前期 水 13・14 | 18 |
|--|----|

ドイツ語初級

| | |
|---|----|
| ドイツ語初級 ... (夜間主 (全2~4年)) / ヘルベルト / 前期 火 13・14 | 18 |
|---|----|

情報科学

| | |
|--|----|
| 情報科学入門 ... (夜間主 ((建機化生電)1~4年)) / 松浦 / 前期 木 11・12 | 19 |
|--|----|

4.1 《英語》 (English)

⇒ 米原 .

英語 (English)

基盤英語
Basic English

(夜間主 ((建機電)1 年))
貝沼 恵美・非常勤講師/全学共通教育センター
1 単位 前期 水 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 ボードレス化する世界情勢を理解し適応していくためにも、英語によるコミュニケーション能力の必要性はますます高まっているといえよう。本授業においてはリスニングとリーディングを中心に、英語の総合的運用能力の向上を図る。また特にアジア地域に焦点をあて、異文化に対する理解も深めていく。

【授業の概要】 アジア諸国の文化に触れながら、テキストや CD を用いてリーディングやリスニングを行う。また、文法的基礎事項を確認し、語彙や表現を増やし英語による総合的なコミュニケーション能力の向上を図る。毎回授業中に、単語や慣用句、ディクテーションなどの小テストを実施し、理解度を確認していく。

【キーワード】 アジア、リーディング、リスニング

【到達目標】

1. 英語によるリーディングやリスニングに慣れる。
2. 英語によるコミュニケーションが可能になるよう、語彙を増やしていく。
3. アジア地域を中心に、異文化に対する理解力を深める。

【授業の計画】 1. Class Guidance 2. Unit1: India 3. Unit1: India 4. Unit4: Malaysia 5. Unit4: Malaysia 6. Unit6: Indonesia 7. Unit6: Indonesia 8. TOEIC Guidance 9. Unit7: The Philippines 10. Unit7: The Philippines 11. Unit10: Korea 12. Unit10: Korea 13. Unit12: Japan 14. Unit12: Japan 15. Final Examination 16. Test Review

【教科書】 Nobuyuki Honna 他『Understanding Asia』センゲージ ラーニング株式会社、2,000 円 (税別)。

【成績評価の方法】 出席状況、学期末試験、予習状況、毎回行う小テストなどにより総合的に評価します。

【再試験の有無】 出席率 2/3 以上、小テストの平均点が 60%以上の者についてのみ実施します。

【受講者のメッセージ】 1) 予習をして授業に臨んでください。2) 毎回小テストを行いますので、欠席・遅刻が多いと単位の取得は困難になります。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221350>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 貝沼 .

英語 (English)

基盤英語
Basic English

(夜間主 ((化生知)1 年, (機)2 年))
米原 晶子・非常勤講師
1 単位 前期 水 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 今日の社会において英語による情報の授受の必要性はもはや論を俟たないであろう。この授業では、英語の実用的運用能力をはかる客観的テストとして近年広く普及している TOEIC(Test of English for International Communication) の受験の準備を目的とする。

【授業の概要】 TOEIC の問題集を解いていく。リスニング問題、リーディング問題ともに各自が事前学習をして来ることが前提で、教室は答え合わせと解説の場とする。またビデオで簡単な日常会話・旅行会話の慣用表現も学習する。

【キーワード】 TOEIC, 語彙

【到達目標】

1. TOEIC 問題パタンに慣れる。
2. TOEIC に出てくる語彙、特にビジネス系の語句に習熟する。
3. TOEIC にでてくるビジネス文書に慣れる。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. Unit 1 3. Unit 2 4. Unit 3 5. Unit 4 6. Unit 5 7. Unit 6 8. Unit 7 9. Unit 8 10. Unit 9 11. Unit 10 12. Unit 11 13. Unit 12 14. Unit 13 15. 期末試験 16. まとめ

【教科書】 鈴木薫『The Next Stage to the TOEIC Test Pre-intermediate』金星堂

【成績評価の方法】 学期末試験、予習状況、中間試験などにより総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 必ず予習をして来て下さい。CD 付きテキストですから、リスニング問題は何度でも分かるまで聞いて解答してみてください。TOEIC はとにかく忙しい試験で、時間勝負で慣れが必要です。平素のリスニングやボキャビルも欠かせません。ラジオ語学講座は有効です。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221349>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

英語 (English)

基盤英語
Basic English

(夜間主 ((建電)1 年))

上野 加代子・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究所
1 単位 前期 火 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 TOEIC(Test of English for International Communication) 試験のリスニング学習を通して、リスニング力を高めるとともに、有用な単語やフレーズを学習し、映画・ドラマを数多く視聴し、スピードの速いネイティブ英語に慣れる。

【授業の概要】 授業は 2 つのパートから成る。①TOEIC のリスニング練習等を行い、TOEIC 試験のこつをつかむ。②そして海外英語ドラマや映画を視聴し、穴埋めの聞き取りを行うことで、有用なフレーズを習得し、リスニングの力を高める。

【キーワード】 リスニング、映画、TOEIC

【到達目標】

1. 英語学習の意欲が高まる
2. TOEIC500 点以上を取る

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. TOEIC&映画などのリスニング 3. TOEIC&映画などのリスニング 4. TOEIC&映画などのリスニング 5. TOEIC&映画などのリスニング 6. TOEIC&映画などのリスニング 7. TOEIC&映画などのリスニング 8. TOEIC&映画などのリスニング 9. TOEIC&映画などのリスニング 10. TOEIC&映画などのリスニング 11. TOEIC&映画などのリスニング 12. TOEIC&映画などのリスニング 13. TOEIC&映画などのリスニング 14. TOEIC&映画などのリスニング 15. TOEIC&映画などのリスニング 16. 総括授業

【成績評価の方法】 成績は、期末試験 (60%) 中間テスト (20%) 授業中の正解回数 (20%) で総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221352>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 上野 (088-656-7682, ueno@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 毎週水曜日 11 時 40 分 ~ 12 時 40 分)

英語 (English)

基盤英語
Basic English

(夜間主 ((化生知)1 年))
魚崎 典子・非常勤講師/全学共通教育センター
1 単位 前期 火 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『基盤英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『英語 (1)』)

【授業の目的】 社会がグローバル化する中、英語コミュニケーション能力は必要不可欠になっています。本クラスでは親しみある歌を通して英語の Listening, reading, speaking 能力の向上を目指します。

【授業の概要】 ポピュラーソングを鑑賞して歌詞を理解し、歌について書かれたエッセイ文を読んだり、リスニング行い、リーディング力、リスニング力の向上を目指します。適宜課題や小テストが課せられます。また TOEIC 対策もする予定です。

【到達目標】

1. 平易な英文が読めるようになる。
2. 会話でよく使われる表現の聞き取りができるようになる。
3. 英米文化への理解を深める。

【授業の計画】 1. Introduction 2. Material Girl 3. Closer to Home/I'm Your Captain 4. High School 5. No Fun 6. Leader of the Pack 7. I'm Eighteen 8. Search and Destroy 9. Frozen 10. TOEIC TEST REHEARSAL 11. Shakin' Street 12. We're an American Band 13. Bohemian Like You 14. A Whiter Shade of Pale 15. 期末試験 16. 総括

【教科書】 魚崎典子 (松柏社)

【成績評価の方法】 小テスト、レポート、学期末試験、授業への貢献度を総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 日頃から英語の歌に親しみましょう。学期末試験は、授業時間数の 3 分の 2 以上出席していなければ受験資格を失うので注意すること!

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221351>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 魚崎 . (オフィスアワー: 初回の授業でお知らせします。)

英語 (English)

主題別英語 (夜間主 ((建化生知)2 年, 全 3・4 年))
Thematic English

座喜純・准教授 / 大学院ソシオ・アート・アンド・サイエンス研究部
 1 単位 前期 火 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目: 『主題別英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 This Thematic English class designed to provide a good assistance in developing English abilities in general. Especially, It will focus on Listening, Reading and Writing skills.

【授業の概要】 Classes will be running in ENGLISH language only. There is no specific text book but there will be some other media regarding the 'Theme' which will be selected up to date. Listening and Reading practices will take place during the class hour. As homework, all attendances will be expected to submit an A4 one page report about the 'Theme' within one week after the class. The next class will be a Presentation of some Homework Reports.

【到達目標】 You will gain more skills as much as themes they put into practice.

【授業の計画】 1. Overall Guidance 2. Info Clip 1 3. Presentation of Selected Reports 4. Info Clip 2 5. Presentation of Selected Reports 6. Info Clip 3 7. Presentation of Selected Reports 8. Info Clip 4 9. Presentation of Selected Reports 10. Info Clip 5 11. Presentation of Selected Reports 12. Info Clip 6 13. Presentation of Selected Reports 14. Info Clip 7 15. Presentation of Selected Reports 16. Review

【教科書】 No specific text book but there will be some other media depending on the 'Theme' which will be selected up to date.

【成績評価の方法】 All Attendance, Homework fulfillment and Participation in class

【再試験の有無】 No make-up examination for this course.

【受講者へのメッセージ】 Asking questions in class is very important.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221353>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 座喜 . (オフィスアワー: contact E-mail: jzaki@ias.tokushima-u.ac.jp)

英語 (English)

発信型英語 (夜間主 ((化電知)2 年, 全 3・4 年))
Communicative English

ワイス ドナルド・非常勤講師 / 全学共通教育センター
 2 単位 前期 火 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 The purpose of this class is to develop the student's speaking and listening skills for everyday English in an international society.

【授業の概要】 TOPICS: Meeting and getting to know people, expressing preferences, describing and asking about everyday life and life-styles, shopping, eating out, asking about and describing various countries.

【到達目標】

1. Talk about life in Japan and other countries using English.
2. Learn the English you will need to make friends.

【授業の計画】 1. Introduction to the course; self introductions; making introductions. 2. Daily activities: yourself, your country, other countries. 3. Shopping and cost of living in various countries. 4. Entertainment: What do you like? What's popular in Japan? In other countries? 5. Review lessons 1- 4; Self-assessment and mini-test. 6. Families 7. Sports, games, and exercise. 8. What do you do for fun? 9. Neighborhoods around the world. 10. Review lessons 6- 9; Self assessment and mini-test. 11. Describing people: appearance, behavior, fashion, and style. 12. Wonderful and strange activities all over the world. 13. Tourist destinations: great places to go. 14. 1. Eating out around the world. 2. Preparation for the final exam. 15. Final exam 16. Course review.

【教科書】 TITLE: New Interchange Student Book 1; Author - Jack C. Richards Publisher: Cambridge University Press

【成績評価の方法】 Final exam 50% Mini-tests 20% Class participation and homework 30%.

【受講者へのメッセージ】 Please be prepared to talk about the world in our class.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221354>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ワイス . (オフィスアワー: woosongdonald@yahoo.com)

英語 (English)

発信型英語 (夜間主 ((建)2 年, (機)3 年, 全 3・4 年))
Communicative English

パトリックジェフ・非常勤講師
 2 単位 前期 火 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目: 『発信型英語』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『英語 (2)』)

【授業の目的】 The purpose of this class is to better prepare the student to express ideas and interact in both written and spoken English environments.

【授業の概要】 話題: 紹介・物と場所の特徴・習慣・人の特徴・天気・家族・行事・町・買物・国々・臭味・感情 文法: be 動詞・代名詞・現在進行形・形容詞・前置詞・単数・複数・現時系・未来系・時間

【到達目標】

1. 教科書・プリントなどを使って英語を練習する。
2. できるだけ英語を話させる。
3. 毎週、短い作文を宿題として書かせる。

【授業の計画】 1. 講義: 疑問視, 短い返事, 代名詞宿題: 自己紹介 2. 講義: 疑問詞, 時間の前置詞宿題: 職場, 意見の教え方, 日課 3. 講義: 指示詞話題: 値段, 好き嫌い, 比較, 買い物 4. 講義: 所有代名詞, 天気宿題: 天気の作文 5. 講義: 現在進行形, 限定詞宿題: 家族 6. 講義: how, 副詞宿題: スポーツ, 運動 7. 講義: 不規則動詞, 過去形宿題: 連休, 趣味 8. 講義: there, 不可算名詞宿題: 近所, 店 9. 講義: 人のことの説明, 性格宿題: 人の特徴, 顔 10. 講義: 計画の作り方宿題: おもしろい体験 11. 講義: 副詞, 形容詞, 接続詞宿題: 国々, 町の特徴 12. 講義: can, could, may 宿題: 健康 13. 講義: 注文の仕方話題: レストラン, 食べ物 14. 講義: 比較形, 最上形宿題: 地理, 環境 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 題名: New Interchange Student's Book 1 著者: Jack C. Richards 出版社: Cambridge University Press

【成績評価の方法】 作文・態度・期末試験

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 英会話の心の準備をしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221355>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ パトリック .

【備考】 旧カリキュラムでは授業科目: 英語 (2)

4.2 《ドイツ語》 (German)

【備考】◇ドイツ語、本気の人歓迎。一緒に楽しく勉強しましょう。◇
旧カリキュラムでは授業科目:ドイツ語(2)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門

(夜間主(全1~4年))

Introductory German

井戸慶治・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
1単位 前期 水 13・14

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』)

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(1)』)

【授業の目的】ドイツ語の基礎を習得し、またドイツ事情に触れる。英語以外の外国語を学び、英語圏以外の外国の事情や文化を知ることは、偏りのない健全な国際感覚を持つために必要であり、知的な刺激を得るためにも有益である。ドイツはヨーロッパにおける日本の重要な貿易や文化交流の相手であり、かつて板東収容所でドイツ人捕虜が「第九」を初演したことなどにより、徳島との関連も深い。

【授業の概要】読章、文法説明、練習問題からなる総合的な教科書を用いて上記のことを学ぶ。知識を少しずつ確かなものにしてゆくため、授業のはじめに前回習った基本的な事項について小テストで問う。時として、視聴覚教材などを用いてドイツ事情、ドイツ文化を紹介する。

【キーワード】外国語、ドイツ語、異文化理解

【到達目標】ドイツ語文法の基本や簡単な表現を理解し、応用すること。

【授業の計画】1. 授業ガイダンス 2. 発音 3. 1課、規則動詞の現在人称変化 4. 同上、ドリル問題 5. 2課、名詞の性と冠詞 6. 同上、ドリル問題 7. 3課、語順、不規則動詞 8. 同上、ドリル練習 9. 4課、不規則動詞、前置詞 10. 中間テスト 11. 5課、副文、従属接続詞、人称代名詞、非人称動詞 12. 同上、ドリル問題 13. 6課、話法の助動詞、未来形 14. 7課、分離動詞、前期の復習 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】「行ってらっしゃい」(朝日出版社)。独和辞典が必要であるが、最初の授業で紹介する。

【成績評価の方法】中間試験、期末試験、平常点(小テスト、授業への取り組み方)で、総合的に評価する。

【再試験の有無】なし

【講師へのメッセージ】出席を怠らず、課題をしっかりと果たすこと。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221356>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp)

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級

(夜間主(全2~4年))

Elementary German

ヘルベルト ウォルフガング・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
1単位 前期 火 13・14

(平成19年度以前の授業科目:『ドイツ語初級』)

(平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『ドイツ語(2)』)

【授業の目的】これまで学んだドイツ語のレベルアップ。外国語を習得するため必要な四つの能力、話す、聞く、読む、書くをどうに鍛錬し、よりの確かなドイツ語の表現を身につける。ドイツ語圏の文化と人々についての理解を深める。

【授業の概要】ドイツ語会話を通して、ドイツ語圏での文化、習慣、考え方、ライフスタイルなども紹介します。日常的に使う文、章、言い回しを中心にペアや小グループで会話練習したり、文法問題を解いたり、聞き取り練習をしたり、簡単な作、文を作ったりします。

【到達目標】ドイツ語の日常的な会話と簡単な文章の読み書きが出来るようになること。ドイツ語圏の文化と事情にふれる。

【授業の計画】1. オリエンテーション、外国語の学び方について、辞書などの使い方 2. 挨拶、自己紹介、職業、勉強、専門についての会話 3. 国名、都市、アルファベット、発音、ナンバープレートゲーム 4. 数詞、ドイツ語で電話をする 5. 家族、親類、目的確 6. 事務所の設備、仕事、アルバイトについて 7. 趣味、不規則動詞の現在人称変化 8. 余暇、週末の過ごし方について、小テスト 9. 旅に出る、ホテルで 10. 駅、空港で、時刻表の読み方 11. レストランでの大事な表現 12. 食事、飲み物の話、ドイツ、オーストリーの喫茶店 13. 外出、約束すると関係ある表現 14. ドイツ、オーストリー料理について 15. 定期試験 16. 纏めと質疑応答

【教科書】プリントを配布する。

【成績評価の方法】学期末試験、小テスト、宿題、出席、授業への取り組み状況をもとにして総合的に評価する。抜き打ちテストあり

【再試験の有無】無

【講師へのメッセージ】居眠り厳禁

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221357>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16.15h-17.30h (総合科学部1号館1階N06))

4.3 《情報科学》 (Information Science)

情報科学 (Information Science)

情報科学入門 (夜間主 ((建機化生電)1~4 年))

Introduction to Information Science

松浦 健二・准教授/情報化推進センター
2 単位 前期 木 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『情報科学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『情報科学』)

【授業の目的】 今やコンピュータの利用なくして、学習も研究も、あるいは卒業社会で活躍するにも成立しない時代となっている。コンピュータが身近になったとは言え、その適切な使い方や、それを生かした考え方、あるいは学び方について学ぶ事は今後の人生にとって欠かせない。本授業では、その基本的な考え方やスキルの習得を目指し開講する。

【授業の概要】 1. コンピュータを扱う上での情報セキュリティの概念と知識を習得する。2. 社会に参画する上での、情報倫理を考える。3. コンピュータによる情報リテラシーを身につける 4. 情報の整理と表現方法を習得する。

【キーワード】 情報リテラシー、セキュリティ、情報化社会

【到達目標】 現代社会において必須ツールであるネットワークとコンピュータを用いて学び方、情報整理、情報表現のスキルを身につける

【授業の計画】 1. 情報セキュリティと大学生活 2. 情報管理 3. 情報社会と情報倫理 4. ネットワークと電子メール 5. オンラインコンテンツを用いた学び 6. 文書の作成技法 7. 文書を用いた情報伝達 8. 表計算とグラフ表現 9. 表計算とデータ処理 10. 統計的な考え方の基礎 11. 情報の表現方法に関する学習 (HTML 基礎) 12. 情報の表現方法に関する学習 (HTML 演習) 13. 情報の表現方法に関する学習 (プレゼンテーション設計) 14. 情報の表現方法に関する学習 (プレゼンテーション演習 I) 15. 情報の表現方法に関する学習 (プレゼンテーション演習 II) 16. 総括授業

【参考書等】 内容が多岐に渡るため、関連図書等は随時示す

【成績評価の方法】 毎週のレポート提出状況と授業への取り組みから総合的に成績判断を行う。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 ワープロや表計算ソフト、プレゼンテーションソフト等の基本的な操作知識やスキルは既知のものと仮定します。コンピュータの初心者には、事前にこれらを習得しておくことが望ましい。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221358>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 松浦 (院生棟 505, matsuura@ait.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日18時~20時)

5) 【基礎科目群】 (Category of Basic Science Subjects)

基礎数学

| | |
|--|----|
| 線形代数学 I ... (夜間主 (全 1 年)) / 桑原 / 前期 火 13・14..... | 22 |
| 微分積分学 I ... (夜間主 (全 1 年)) / 坂口 / 前期 水 11・12..... | 22 |

基礎物理学

| | |
|---|----|
| 基礎物理学 f・力学 ... (夜間主 (全 1 年)) / 川崎 / 前期 木 13・14..... | 23 |
|---|----|

5.1 《基礎数学》 (Basic Mathematics)

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 I

Linear Algebra 1

(夜間主 (全 1 年))

桑原 類史・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2 単位 前期 火 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 今や線形代数学は、工学や社会科学の広い分野で大きな役割を演じている。また、微分積分学と並んで数学やその応用の研究を志す人にとって車の車輪の如く基本的な学問分野であり、工学の専門分野の修得には線形代数学の理解は欠かすことができない。本講義では、数学の基礎的教養の一翼を担う線形代数学それ自体の実体的、構造的、法則的理解を目指すと同時に数理科学の基礎的手法の修得を目指す。

【キーワード】 行列、連立 1 次方程式、行列式

【関連科目】 『基礎数学/線形代数学 II』(1.0)

【到達目標】 行列、行列式に関する基本的な計算方法を習得し、連立 1 次方程式の解法に応用できる。

【授業の計画】 1. 導入 (授業計画の説明など) 2. 行列 3. 行列の演算 4. 正則行列、逆行列 5. 色々な行列 6. 行列式 7. 行列式の性質 8. 行列式の展開公式 9. 行列式的应用 10. 行列の基本変形 (1) 11. 行列の基本変形 (2)、逆行列の求め方 12. 連立 1 次方程式とその解法 (1) 13. 連立 1 次方程式とその解法 (2) 14. 幾何ベクトルと数ベクトル 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 裕野敏博・原祐子・山辺元雄 共著「理工系の入門線形代数」学術図書出版社

【成績評価の方法】 期末試験 (70~90%) およびレポート、授業への取り組み状況 (10~30%) などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 有り。ただし、期末試験の成績が 30 点未満のものは、再試験の受験資格なし。

【講師のメッセージ】 講義中は集中して講義内容の理解に努め、自宅で十分な復習を行ってください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221359>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 桑原 (088-656-7226, kuwabara@ias.tokushima-u.ac.jp)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 I

Calculus 1

(夜間主 (全 1 年))

坂口 秀雄・助教/工学部

2 単位 前期 水 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 近年の工学諸分野の発展は、微分積分学の単なる形式的応用能力にとどまらず、基礎概念をしっかりと把握すること、を要求するようになってきている。本講義では、高校で履修した数学と密接な関係を保ちつつ、1 変数関数の微分学の基礎事項の理解を深め、さらに、2 変数関数の微分の取り扱いに習熟することを目的としている。

【授業の概要】 微分積分学の基礎になっている極限の概念からはじめて、基本的な初等関数の導関数やテイラー展開について講義する。さらに 2 変数関数については、偏微分と全微分及び偏微分法の基本的な公式とその応用を講義する。

【到達目標】

1. 極限の厳密な取り扱いが理解できる。
2. 簡単な 1 変数関数に対してテイラー展開ができる。
3. 簡単な 2 変数関数に対して偏微分ができる。
4. 偏微分法の基本的な公式が使える。

【授業の計画】 1. 数列の極限 2. 関数の極限 3. 連続関数の性質 4. 微分法の基本公式 5. 基本的な初等関数の導関数 6. 平均値の定理 7. テイラーの定理 8. 平面の位相と 2 変数関数 9. 2 変数の連続関数 10. 偏微分係数 11. 全微分 12. 偏微分法の基本公式 13. 2 変数関数のテイラー展開 14. 偏微分法的应用 15. 前期テスト 16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 教科書: 大原一孝著 『実例で学ぶ微分積分』 学術図書出版
- ◇ 参考書: 伊東由文著 『解析学 (上)』 サイエンスハウス

【成績評価の方法】 テストを実施する

【再試験の有無】 無

【講師のメッセージ】 特になし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221360>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 坂口 (A 棟 221, 088-656-7547, saka@pm.tokushima-u.ac.jp)

5.2 《基礎物理学》 (Basic Physics)

基礎物理学 (Basic Physics)

基礎物理学 f・力学
Mechanics

(夜間主 (全 1 年))
川崎 祐 講師/工学部

2 単位 前期 木 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎物理学』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎物理学』)

【授業の目的】 学部における専門教育を理解する上で必要になる基礎的な力学的知識およびその考え方を習得するとともに、応用能力を身に付けることを目的とする。基礎的な力学現象を中心にそれらの数学的記述を理解することを目的とする。

【授業の概要】 質点の運動におけるニュートンの運動法則の数学的記述を示し、基本的な力学現象にそれを適用することにより、その運動を理解する。次いで、運動量、力学的エネルギー、角運動量の保存則を概観する。

【キーワード】 ニュートンの運動法則、力学的エネルギー、運動量、角運動量

【先行科目】 『基礎数学/微分積分学 I』(1.0)

【関連科目】 『基礎物理学/基礎物理学 g・電磁気学概論』(0.5)

【到達目標】

1. 力という抽象的概念及びニュートンの運動方程式を理解する
2. 仕事、運動エネルギー、保存力とポテンシャルエネルギーの関係、及び力学的エネルギーの保存則について理解する
3. 運動量とその保存則、また回転運動を角運動量、トルクという物理量で捉える方法について理解する

【授業の計画】 1. 物理学と測定 2. ベクトル 3. 1次元の運動 4. 2次元の運動 5. 運動の法則 6. 円運動とニュートンの法則の他の適用例 1 7. 円運動とニュートンの法則の他の適用例 2 8. 仕事とエネルギー 9. ポテンシャルエネルギーとエネルギー保存則 10. 運動量と衝突 11. 固定軸周りの剛体の回転 12. 転がり運動、角運動量およびトルク 13. 演習 14. 演習 15. 期末試験 16. 総括

【教科書】 R.A. サウウェイ 科学者と技術者のための物理学 Ia 力学・波動 (学術図書)

【成績評価の方法】 期末試験、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 公式を暗記するのではなく、力やエネルギーという抽象的概念を理解することが肝心である。教科書には独習できるように、丁寧に書かれた本を選定している。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221361>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 川崎 (A 棟 217, 088-656-9878, yu@pm.tokushima-u.ac.jp)

6) 【学部が開放する授業題目】 (Subjects offered by Faculties)

自然と技術

| | |
|--|----|
| (工) 機械工学概論 ... (夜間主 ((機)1~4 年)) / 機械工学科教員 / 前期 月 13・14 | 26 |
| (工) 情報理論 ... (夜間主 ((知)1~4 年)) / 大濱・渡辺 / 前期 金 11・12 | 26 |

自然と技術 (Science and Technology)

(工) 機械工学概論 (夜間主 ((機)1~4 年))
Outline of Mechanical Engineering 機械工学科教員
 2 単位 前期 月 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】この講義では、機械工学のもつ総合的な特性を通して、理系および文系の学生に現代社会における機械工学が果たす役割について理解してもらう。

【授業の概要】機械工学の役割はエネルギー機器から精密・情報機器、半導体生産設備、食品加工機などの企画、開発、設計、生産と非常に幅広く、機械工学は多くの技術、工学を融合したものである。この機械工学の発展の歴史、現在の課題、未来への展望などを各教官の専門分野の話題を通して講義する。

【キーワード】機械科学、機械システム、知能機械、生産システム

【到達目標】機械工学を通して、機械工学の現代社会における役割を理解し、総合的な判断能力を養うことを目標とする。

【授業の計画】1. 機械を構成する部材に生じる変形と力の係わり 2. 材料の微視構造と新材料の開発動向 3. 機械の破壊の仕組みと防止方法 4. 流体エネルギーの利用について 5. 流れの中の物体に働く揚力と抗力 6. 熱エネルギーの利用について 7. 機械振動の制御 8. 自動制御の歴史 9. ロボット工学の将来 10. 加工と生産システムの歴史 11. 材料の微細組織と機械的性質 12. 計測とデータ処理 13. 超精密機械としての分光器の原理と性能および応用分野 14. エンジンにおける代替燃料の利用 15. レポート指導と総括

【教科書】

- ◇ 教科書:使わない
- ◇ 参考書:各週の講義では OHP 等で具体的な説明があり、テーマごとにプリント等が参考資料として配布される。参考書は、講義の中で随時紹介する。

【成績評価の方法】各テーマの講義について、毎回、レポートの提出が義務付けられる。このレポートの提出と講義への取組みを総合して評価する。

【再試験の有無】無

【講師へのメッセージ】機械工学に関心をもつ者への導入教育科目の一つとして位置づけているので、機械工学科の学生は必ず受講するように希望する。レポートの様式・内容・提出のきまり(場所・期日)は、各回の講義時間に連絡される。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221362>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 機械工学科教員

自然と技術 (Science and Technology)

(工) 情報理論 (夜間主 ((知)1~4 年))
Information Theory 大濱 靖匡・教授/大学院ソシオテクノサイエンス研究部
 渡辺 峻・助教/大学院ソシオテクノサイエンス研究部
 2 単位 前期 金 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)
 (平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『学部開放科目』)

【授業の目的】高度情報化社会を支える重要な基盤技術である情報通信、蓄積技術の基礎となる理論について理解する。

【授業の概要】情報理論は、高速かつ高信頼な情報通信や蓄積技術を実現する為の基礎理論である。本講義では、情報通信、蓄積の理論的な限界及び具体的な実現方法について紹介する。情報理論の実用例についての紹介も行う。

【キーワード】情報源符号化定理、情報源符号化法、通信路符号化定理、誤り訂正符号

【到達目標】

1. 情報源符号化法、通信路符号化法の概念を理解する。
2. 基礎的で具体的な符号化の構成法を修得する。

【授業の計画】1. 情報理論概説 2. 情報源のモデル化 3. 通信路のモデル化 4. 情報源符号化の基礎概念 5. ハフマン符号 6. 情報源符号化定理 7. 情報源符号化法 8. 情報源符号化法の実用例 9. 情報量、エントロピー、相互情報量 10. 通信路符号化の基礎概念 11. 通信路符号化定理 12. 通信路符号化法 13. 誤り検出・訂正符号 14. 通信路復号法 15. 通信路符号化法の実用例 16. 期末試験

【教科書】特に指定しない。適宜、資料を配布する。

【参考書等】

- ◇ 嵩忠雄著、情報と符号の理論入門、昭晃堂
- ◇ 今井秀樹著、情報・符号・暗号の理論、コロナ社
- ◇ 今井秀樹著、情報理論、昭晃堂

【成績評価の方法】講義中に小テストを行う。期末試験 90%、小テスト 10%として評価し、評価値が 60%以上に達した場合に合格とする。

【講師へのメッセージ】講義資料は、Web を用いて配信する。プリントして講義へ持参する事。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221347>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

第2章

後期

後期

1) 【教養科目群】 (Category of General Education Subjects)

歴史と文化

| | |
|---|----|
| アジアの近代と日本 ... (夜間主 (全 1~4 年))/ 葭森 / 後期 月 13・14 | 30 |
| 写真画像保存技術概論 ... (夜間主 (全 1~4 年))/ 石井 / 後期 月 13・14 | 30 |
| 日本語力をみがこう ... (夜間主 (全 1~4 年))/ 仙波 / 後期 木 11・12 | 30 |

生活と社会

| | |
|--|----|
| 社会学のパーспекティブ ... (夜間主 (全 1~4 年))/ 矢部 / 後期 月 13・14 | 32 |
| ゲーム理論入門 ... (夜間主 (全 1~4 年))/ 内藤 / 後期 月 13・14 | 32 |

自然と技術

| | |
|--|----|
| 地球の科学 ... (夜間主 (全 1~4 年))/ 石田 / 後期 木 11・12 | 33 |
|--|----|

1.1 《歴史と文化》 (History and Culture)

歴史と文化 (History and Culture)

アジアの近代と日本 Modern Asian History

榎森 健介・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2単位 後期 月 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『外国史』)

【授業の目的】 19 世紀後半以降の日本とそれを取り巻く世界の歴史を理解し、人類の平和と幸福のために次代を担う若者が何をなすべきかを考えてもらうことを目的とする。

【授業の概要】 未来は明るいのか?世界には争いや貧困が取り巻いている。また日本の国力も低下しつつあるといわれる。しかし、次の時代に望みが持てないのではあまりにも悲しすぎる。とはいえ当面する課題から逃げてはならない。現在起こっている問題は近代という時代、それを作った西洋価値観の行き詰まりから生まれている。近代の日本とアジア・アフリカの歴史を振り返りつつ、現代社会が当面する課題を見つめ、別の価値観から次のステップへと進むべきためのヒントを考えたい。

【キーワード】 アジア, 日本, 近代化, 国際関係, 戦争

【到達目標】 幅広い観点から近代そして現代とは何かを理解し、それを踏まえてこれからの日本あるいは各自の進む方向について考え、客観的かつ説得的に文章で表現できることを目標とする。

【授業の計画】 1. 君たちの未来は輝いている!? 2. 西洋と東洋の間で-日本の近代化と外交 3. 脱亜入欧から大東亜共栄へ-近代の国際情勢と戦争への道程 4. 寅さんが演じた皇軍兵士-映画『拝啓天皇陛下様』① 5. 善人が起こした戦争-映画『拝啓天皇陛下様』② 6. 戦争の加害者・被害者とは?-国家の戦争と庶民の戦争 7. 世界大戦は終わったのに-人類はなぜ戦いをやめないのか? 8. 民族紛争と先進国の責任-映画『ホテルワング』① 9. 民族紛争の悲劇とは-映画『ホテルワング』② 10. 民族紛争の原因とは-近代国家と民族対立 11. 近代日本が抱えた民族問題-映画『族譜』① 12. 戦前の日本の国際感覚-映画『族譜』② 13. 日本人が国際感覚を身につけるために-創始改名をめぐる誤解に学ぶ 14. 国際化社会の光と影-経済活動が庶民生活にもたらすもの 15. 後期試験 16. 総括-平和で豊かな未来を目指して

【教科書】 特にないが高校の時に使った日本史, 世界史, 現代社会の教科書を持参のこと

【参考書等】 授業中に紹介する

【成績評価の方法】 随時行う小テスト・レポートと学期末テストの成績を総合して評価する。

【再試験の有無】 再試験はいたしません。

【受講へのメッセージ】 歴史を自分で学ぼうとする良心, 自ら考えるという態度が必要である。学ぼうという姿勢のないもの、他の受講生に迷惑となる行動をとる場合は受講を拒否する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221363>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 榎森 (アジア史研究室, 088-656-7156, yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16:30~17:30)

歴史と文化 (History and Culture)

写真画像保存技術概論

Introduction to Photographic Technique

石井 健二・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2単位 後期 月 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『芸術』)

【授業の目的】 表現された写真画像の歴史的背景や表現方法の識別を目的とする。なお社会 (あるいは学問体系) における同授業を受ける意義と必要性、あるいは、同授業の社会における立ち位置等について、私自身が考えていることを書いておきたい。現代社会は外国文化との接触・交流の密度が増し、広い意味での異文化理解についての深い勉強を大学生活の中で積極的に行うことが、どのような分野を専攻しようとしている学生にとっても、極めて大切である。この授業は、そのような意味においても大変有益であり、又、多様なビジュアルコミュニケーションを最初に書いたような趣旨で学生時代に学ぶことは、どのような研究分野を目指している学生にとっても、直接的にも間接的にもプラスに働くことが多いのではないかと考えている。

【授業の概要】 19 世紀中期以降、現在までに表現された写真画像を教材とし、画像の識別方法についても講義する。

【キーワード】 画像保存

【先行科目】 『歴史と文化/アーツ・アンド・テクノロジー』(1.0)

【関連科目】 『歴史と文化/ビジュアルコミュニケーション』(0.5)

【到達目標】 表現された写真画像の識別と時代背景についての認識を深める。

【授業の計画】 1. 本講義では、ミュージアムに於ける写真画像について検討を行う。19 世紀中期以降現代に至るまでに表現された、写真画像を教材として、画像の識別方法について検討をおこなう。 2. 受講生による発表を中心に授業を進める 3. 21 世紀における画像保存の現状とその必要性について 4. 写真撮影と撮影画像の利用方法について 5. ハウジング実習とその必要性について 6. 写真画像の劣化と古文書の管理方法について 7. コンディションレポートの書き方について 8. コンディションレポート作成 9. 写真画像の識別方法について 10. 白黒フィルムを使った、オブジェの撮影実習 11. 白黒フィルム処理について 12. カラーフィルムを使った、オブジェの撮影実習 13. カラーフィルム処理について 14. 作品の展示方法について 15. レポート提出の締め切り 16. 総括授業

【教科書】 教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書等】 講義の中で配布する。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況、レポート及び出席状況などにより総合的に評価する。

【再試験の有無】 行わない。

【受講へのメッセージ】 講義は総合科学部マルチメディア B 棟 1 階 講義・実習室にて行う。2011 年度は、後期の月曜日 13・14 講時に開講する。教養様科目の単位となります。30 人で締め切る。写真画像保存に興味関心のある意欲的な学生を望む。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221364>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 石井 (マルチ B-203, 088-656-7165, ishii@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日昼休み)

歴史と文化 (History and Culture)

日本語力をみがこう

Brush up your Japanese

仙波 光明・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2単位 後期 木 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『歴史と文化』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『日本語学』)

【授業の目的】 現代の社会生活を送る上で、身につけておいた方がよいと思われる、「正しい」日本語についての知識を増やすと共に、適切な日本語とはどのようなものか、的確に判断できるようになるための勉強の仕方を身につける。

【授業の概要】 規範的な日本語のあり方を重視する立場から書かれた教科書を利用し、それに従いつつ、一方、別の見方についても必要に応じて話題にする。教科書に用意された問題を解くことをしながら、より深く検討してみたい。

【到達目標】

1. 社会生活に必要な日本語についての学び方を知る。
2. 規範的な (正しいと言われる) 日本語についての知識を身につける。
3. 敬語のしくみの基本を知り、適切に運用できるようになる。
4. 言語運用を支える日本語の文法について、必要な知識を身につける。
5. 語彙力、漢字力を養う方法を身につける。

【授業の計画】 1. 日本語の勉強を始める前に (教科書の第 1 日 ~ 第 2 日) 2. 尊敬語と謙譲語 (教科書:第 6 日 ~ 第 12 日) 3. 第三者が関わる場合の敬語など (教科書第 13 日 ~ 第 18 日) 4. 敬語についての整理 (教科書第 6 日 ~ 第 21 日) 5. 文法その 1(正しくないと言われる表現は、なぜ生まれたのか。教科書第 22 日 ~ 第 26 日から) 6. 文法その 2(悪文はなぜできてしまうのか。教科書第 27 日 ~ 第 31 日から) 7. 語彙力 (使える言葉の数を増やすには、教科書第 32 日 ~ 第 41 日) 8. 語彙力 (同義語・対義語・類義語を探すには、教科書第 42 日 ~ 第 48 日) 9. 日本語の表記 (仮名遣い・送り仮名。教科書第 49 日 ~ 第 54 日) 10. 日本語の運用 (意味を調べる。慣用句を覚えよう。教科書第 55 日 ~ 第 62 日) 11. 日本語の運用 (ことわざ・故事成語など。教科書第 63 日 ~ 第 68 日) 12. 漢字の大切さ (教育漢字は完璧ですか? 教科書第 69 日 ~ 第 75 日) 13. 漢字 (より高いレベルに達するには、どこまで求められるのか。教科書第 76 日 ~ 第 83 日) 14. まとめと補足 (教科書第 84 日 ~ 第 90 日) 15. 試験 16. 補足・補充的なことから (内容未定)

【教科書】 川本信幹『みがこう、あなたの日本語力』東京書籍

【参考書等】 必要な、あるいは参考になるものを随時紹介する。

【成績評価の方法】 小テスト (毎回行います)50%、試験 50%を基準とする。

【再試験の有無】 再試験

【受講へのメッセージ】 シラバスの内容および授業の進捗について、ある程度の修正が行われるかもしれない。詳しくは、1 回目の授業で説明する。このシラバスの内容は、あくまでも予定である。教科書を用いるが、教科書の内容すべてにわたって解説することは予定していない。あくまでも自習を前提とする。なお、この授業では、毎回、小テストを実施する。また授業に関する質問・感想・疑問等を書いて提出してもらうが、このデータ (出席状況、質問、感想) は、次回の授業資料に記すかたちで受講生に公開される場合がある。ただし、受講者数などの状況によって不可能になるかもしれない。なお、6 回以上欠席した場合には、名前が上記資料から自動的に削除される。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221365>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

全学共通教育 (2011) 〉 後期・【教養科目群】・《歴史と文化》

⇒ 仙波 (2319, 088-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp)

1.2 《生活と社会》 (Living and Society)

生活と社会 (Living and Society)

社会学のパースペクティブ
Sociological Perspectives

(夜間主 (全 1~4 年))

矢部 拓也・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2 単位 後期 月 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『社会学』)

【授業の目的】 私たちを取り巻く「社会」とは、どのように成立しているのか? <社会的なもの>と<個人的なもの>とはどのような関係にあるのか? 私たちの日常生活とマクロな社会の構造や変容とはどのような関連をもつのか? 本講義では、社会学の基礎的な概念や理論を用いて、各々が日常的に経験している「社会」を理解する視座である「社会学的想像力」を獲得することを目指す。

【授業の概要】 イギリスの社会学者アンソニー・ギデンズが、社会学の入門書として書いた「社会学:改訂第3版」をテキストとする。毎回一つのテーマを設定して、それに関する社会学の用語や考え方を用いて問題点を論じる。ギデンズは、アメリカ中心の社会学を英国流に書き換えながら論じている。我々は、これを日本での自分たちの生活をもとに書き換える作業をすることで、ギデンズが見逃している視点や、欧米と共通する視点を議論してゆく。また、日本の今日的な話題も加えながら授業を進めて行く。

【キーワード】 現代社会、都市社会学、格差

【到達目標】 自分たちの身近な生活世界と<社会>とのつながりを語れるような「社会学的想像力」を身につける

【授業の計画】 1. 授業計画 2. ワークショップ「ワニの川」社会の多様性 3. 社会学の理論その1(1章, 21章) 4. 社会学の理論その2(1章, 21章) 5. ジェンダー論(5章) 負け犬の遠吠え 6. 【フリーター論1】「フリーター漂流」ビデオ 7. 【フリーター論2】VTRへのコメント, 討論 8. 【フリーター論3】「ワーキングプア」ビデオ 9. 【フリーター論4】ゲストスピーカー その1 10. 【フリーター論5】「ワーキングプアIII 解決への道」ビデオ 11. 【フリーター論6】ゲストスピーカー その2 12. 社会成層と階級構造(10章) 13. 『趣都の誕生:萌える都市アキハバラ(森川嘉一郎, 2003, 幻冬舎)』 14. 川を活かしたまちづくり, アドプト, 吉野川フェスティバル 15. 都市と現代アーバンイズム論(17章) 16. 総括授業

【教科書】 アンソニー・ギデンズ『社会学(改訂第3版)』 而立社 1998年 3600円

【成績評価の方法】 期末レポート 80%, 出席 20%. 授業の進め方も含めて、初回の授業で詳しく説明するので、必ず出席すること。

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 単に座って講義を聴くのではなく、これまでの自分の身の回りの経験を元に自分なりの社会を語れるようになってもらいたいと考えている。社会に対するいろいろな疑問や不満を持っている人の参加を期待する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221367>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 矢部 (1228, 088-656-9311, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 木曜日 12:00~12:45(時間帯は随時メールにてご相談下さい))

生活と社会 (Living and Society)

ゲーム理論入門

(夜間主 (全 1~4 年))

Introduction to game theory

内藤 徹・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2 単位 後期 月 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『生活と社会』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『経済学』)

【授業の目的】 我々は日常生活において、相手の行動を予想し決断することが求められます。ゲーム理論は経済学に限らず、結婚、外交、戦争、経営学などその理論はさまざまな分野で応用可能です。本講義ではゲーム理論の初歩を平易に解説する予定です。そして、ゲーム理論を応用した思考力をつけてもらうことを目的とします。

【授業の概要】 具体的な例を用いてさまざまなゲーム理論を紹介します。講義はパワーポイントと事前に配布するレジュメを用いて行います。ゲーム理論の分野は多岐にわたりますが、本講義では主に非協力ゲームを取り扱う予定です。また、実際にゲームを解いてもらうなどの課題をこなしてもらうことで理解を深めたいと考えています。

【キーワード】 ゲーム理論、社会科学、経済学、戦略的思考

【到達目標】

1. 様々な事象にゲーム理論を適用できるようになること。
2. 身近な社会問題を経済学的に把握する方法を理解すること。

【授業の計画】 1. ゲーム理論とは何だろうか? 講義の進め方 2. ゲームを解いてみよう (支配戦略) 3. 囚人のジレンマ 4. ナッシュ均衡 5. ナッシュ均衡 (2) 6. 混合戦略ゲーム (確率を戦略と考える?) 7. 繰り返しゲーム 8. 交互手番ゲーム (ゲームの木を使って考える) 9. コミットメント (自分を拘束して有利に導く?) 10. 脅しと約束 11. 交渉 12. 情報とゲーム (1):逆選択とモラルハザード 13. 情報とゲーム (2):シグナリング 14. インセンティブ 15. 筆記試験 16. 質疑応答と授業全体のまとめ

【教科書】 ゲームと情報の経済分析 (基礎編) エリック・ラスムセン著, 細江守紀 (ほか) 訳

【成績評価の方法】 期末試験および講義中に指示した課題によって評価する

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 講義で使用するレジュメ、使用したパワーポイントのスライドは指定の URL(講義で指示します)にアクセスしてください。レジュメが必要な学生は事前にアクセスしてプリントアウトして講義に持参してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221366>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 内藤 (naito@kyudai.jp)

1.3 《自然と技術》 (Science and Technology)

自然と技術 (Science and Technology)

地球の科学 (夜間主 (全 1~4 年))

The Earth and Environmental History

石田 啓祐・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2 単位 後期 木 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『地学』)

【授業の目的】日本列島というきわめて活動的な地盤に生活する私たちにとって、グローバルな視点から固体地球の物理的な性質と、関連する自然環境の変化を理解することは、大切な課題です。現在の固体地球の姿を理解し、地層や化石の記録から、地球誕生以来の地球表面と生物圏のできごとを明らかにする事例を学びながら、プレート運動などによる地球環境の変遷の結果、私たちヒトが「現在この地球に存在する」こと、そして「命の大切さ」への理解を深めることを目的とします。

【授業の概要】講義の前半は、固体地球の姿とプレート運動論の成り立ちを学び、後半は地球と生命の歴史を学びます。

【キーワード】現在の地球、地球の歴史、環境変化、化石と生物進化

【到達目標】現在に至る地球環境の変遷と生物進化の歴史を学ぶ方法の基本が理解できる。

【授業の計画】1. 幾何測地と物理測地:光学的な測地と重力ポテンシャルを考慮した手法の紹介。地球球形説と楕円体説:地球はどれほど球に近いのか、なぜ楕円体と考えるのか。2. ジオイド:平均海面と一致する等ポテンシャル面が地球楕円体と実地形との中間項、アイソスタシー:ヒマラヤの引力の影響から地殻とマントルのバランス概念は生まれた。3. 重力からみた地球:地球の引力と遠心力の合力である重力、標準重力は地球楕円体上の理論値の概念。標準重力と重力異常の意味。4. 地磁気の原因と古地磁気からわかること:地磁気の性質と変化、その原因、地磁気の逆転、大洋底の磁気縞、磁極の移動と大陸の移動。5. 地球内部の温度の推定:断熱圧縮を熱源とした場合の地球内部の温度分布の見積り。6. 地震波と地球の内部構造:地球内部を伝わる P 波、S 波の速度、P 波の陰の存在、地震の分布:地理的分布と深度分布、和達ベニオフ帯とプレート境界。7. 大陸移動説からプレートテクトニクスへ:ウェゲナーの大陸移動説とその後。8. 地球の年齢を測る:地球の年齢の推定、最古の岩石や隕石からわかること。9. 大衝突から始まる固体地球と大気、海洋の生い立ち:隕石衝突による地球生成からラン藻類による大気、水圏の環境変化。10. 化石の定義:化石から何がわかるか。地質時代と生物界の変遷:動物の進化によって順序立てられた地質時代の区分。11. 初期の大型動物群の誕生の謎と進化の試行錯誤:エディアカラ動物群とバージェス動物群。12. セキツイ動物の出現と上陸:セキツイ動物の出現と進化、大海からの離脱。13. 地質時代の環境変化と生物の絶滅繁栄:時代の節目の大量絶滅の環境要因は? 14. プレートテクトニクスと環境変化:気候や海水準の変化が海陸の分布や生物進化に与えた影響。15. ヒトへの道のり:どのようにして私たちホモ・サピエンスが今ここに存在するのか? 16. 総括授業 (授業評価含む)

【教科書】教科書は特に指定しない。資料を配布する。

【参考書等】「地球大進化 46 億年。人類への旅」全 6 巻、NHK プロジェクト編、2004 年、S. スタンレー著「生物と大絶滅」、東京化学同人、1991 年、平野弘道「繰り返す大量絶滅」岩波書店、1994 年、参考書:丸山茂徳「46 億年地球は何をしてきたか?」岩波書店、1994 年

【成績評価の方法】自主的・自発的な学びの姿勢 (30%) と、期末までに数回にわたって実施する授業内容の課題レポート提出 (70%) により総合的に評価する。

【再試験の有無】授業への積極的な取り組みが見られる受講生には、行うことがある。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221368>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 石田 (総合科学部 3 号館 2 階南 2S04, 088-656-7243, ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日 12 時_13 時)

2) 【社会性形成科目群】 (Category of Social Communication Subjects)

共創型学習

宇宙を探る ...(夜間主(全1~4年))/伏見/後期 月 13・14.....36

2.1 《共創型学習》 (Creativity Development)

共創型学習 (Creativity Development)

宇宙を探る (夜間主 (全 1~4 年))

Introduction to Astronomical Observation

伏見 賢一・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2 単位 後期 月 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目: 『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『総合科目』)

【授業の目的】 宇宙の観測を体験して、現代の科学技術との関連を実感する。宇宙を観測する方法は対象によってさまざまである。はじめにいろいろな天体とその観測方法について紹介する。その後いくつかの観測方法によって宇宙の探求を実践する。

【授業の概要】 1. 天体とは、宇宙の広がりについて 2. 宇宙観測の方法 3. 宇宙観測の実践 (下記のどれかを実践する) 3-1. 天体望遠鏡による観測 (写真・CCD 観測など) 3-2. 望遠鏡を使わない観測 (写真・ビデオ観測など) 3-3. 電波などによる観測

【キーワード】 宇宙論, 天体観測, 写真撮影・画像処理

【関連科目】 『自然と技術/宇宙物理学入門』 (0.5)

【到達目標】 季節の代表的な星座を見つけられること。全ての惑星、主な恒星の名前を言えること。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 天体の階層 (講義) 3. 参考文献購読 4. 参考文献購読・解説 5. いろいろな天体観測の方法 (歴史) 6. いろいろな天体観測の方法 (最新技術の紹介) 7. 天体観測 I 8. 天体観測 II 9. 解説 10. 天体観測 III 11. 天体観測 VI 12. 解説 13. 天体観測 V 14. 天体観測 VI 15. 解説 16. 総括授業

【参考書等】 天文ガイド (伏見教員室に常備しているものを適宜貸与することができる)

【成績評価の方法】 レポート (2~3 回) 50 点。星座解説ができる 20 点。全ての一等星の名前と位置がわかる 10 点。全ての惑星について解説することができる 10 点。メシエ天体について、いくつかの解説ができる 10 点。

【受講者のメッセージ】 天体観測は屋外で夜間に実施します。冬季なので非常に寒くなるのが予想されますので、温かい服装を用意してください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221370>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 伏見 (総合科学部 3 号館 1N01, 088-656-7238, kfushimi@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 平日の 11:50-12:50)

3) 【基盤形成科目群】 (Category of Formative Skills Subjects)

主題別英語

| | |
|---|----|
| 主題別英語 ... (夜間主 ((建機電)1年)) / 魚崎 / 後期 火 11・12 | 38 |
| 主題別英語 ... (夜間主 ((化生知)1年)) / ワイス / 後期 火 11・12 | 38 |
| 主題別英語 ... (夜間主 ((建機電)1年, (建機)2年, 全3・4年)) / 米原 / 後期 水 13・14 | 38 |
| 主題別英語 ... (夜間主 ((化生知)1年, (化生知)2年, 全3・4年)) / 貝沼 / 後期 水 13・14 | 38 |

発信型英語

| | |
|--|----|
| 発信型英語 ... (夜間主 (全2~4年)) / パトリック / 後期 火 13・14 | 38 |
|--|----|

ドイツ語入門

| | |
|--|----|
| ドイツ語入門 ... (夜間主 (全1~4年)) / 井戸 / 後期 水 13・14 | 40 |
|--|----|

ドイツ語初級

| | |
|---|----|
| ドイツ語初級 ... (夜間主 (全2~4年)) / ヘルベルト / 後期 火 13・14 | 40 |
|---|----|

3.1 《英語》 (English)

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(夜間主 ((建機電)1 年))
魚崎 典子・非常勤講師/全学共通教育センター
1 単位 後期 火 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】社会がグローバル化する中、英語コミュニケーション能力は必要不可欠になっています。本クラスでは自然な音声英語の聞き取り能力を向上させると同時にことばの文化的背景への理解を深め、更に自らのコミュニケーション能力を向上させることを目的とします。

【授業の概要】映画“HARRY POTTER”シリーズを観てシナリオを読み、リーディング能力及びリスニング能力の向上をはかります。適宜課題や小テストが課せられます。

【到達目標】

1. 自然なスピードで話された音声英語の聞き取りができる。
2. 会話がスムーズに読める。

【授業の計画】 1. INTRODUCTION 2. Aunt Marge 3. LEAKY CAULDRON 4. Welcome to Another Year at Hogwarts 5. Boggart & Hogsmeads Days 6. You Could Teach Me 7. The Marauder's Map 8. Shrieking Shack 9. Time-Turner 10. Quidditch World Cup 11. The Triwizard Tournament 12. The Champion Selection 13. Horntail 14. Harry Vs. Horntail 15. 期末試験 16. 総括

【教科書】 使用しない。随時プリント等を配布する。参考書は適宜紹介する。

【成績評価の方法】 小テスト、レポート、学期末試験、授業への貢献度を総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 リスニング上達のコツはとにかくたくさん聞くことです。日頃からいろいろな英語をよく聞くように心掛けて下さい。学期末試験は、授業時間数の 3 分の 2 以上出席していなければ受験資格を失うので注意すること!

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221372>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 魚崎 . (オフィスアワー: 初回の授業でお知らせします。)

英語 (English)

主題別英語
Thematic English

(夜間主 ((化生知)1 年))
ワイス ドナルド・非常勤講師/全学共通教育センター
1 単位 後期 火 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 TESOL Goal 2, Standard 2 - Students will use English to obtain, process, construct, and provide subject matter information in spoken and written form; listening to, speaking, reading, and writing about subject matter information; gathering information orally and in writing; retelling information; formulating and asking questions.

【授業の概要】 Topics: Each week we will read, talk, and write about one or two of the biggest news stories in the world.

【到達目標】

1. Read and understand news stories in English.
2. Write about what you have read and talk about it in class.

【授業の計画】 1. Introduction to the course; examples of news stories and how to write and talk about them. 2. News story of the week. 3. News story of the week. 4. News story of the week. 5. News story of the week. 6. News story of the week. 7. News story of the week. 8. News story of the week. 9. News story of the week. 10. News story of the week. 11. News story of the week. 12. News story of the week. 13. News story of the week. 14. Preparation for the final exam. 15. Final exam 16. Course review.

【教科書】 None. All material for the class will be taken from the Internet, from English web sites.

【成績評価の方法】 Final exam 50% Homework assignments 25% Class participation 25%.

【受講者のメッセージ】 There will be reading, writing, listening, and speaking practice each week. All homework will be sent in by email.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221371>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ ワイス . (オフィスアワー: woosongdonald@yahoo.com)

英語 (English)

主題別英語 (夜間主 ((建機電)1 年, (建機)2 年, 全 3・4 年))
Thematic English 米原 晶子・非常勤講師
1 単位 後期 水 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 今日の社会において英語による情報の授受の必要性は高まる一方である。本授業においては、ポップスを中心にしてリスニング能力を高める。また次回の TOEIC 受験に備える。

【授業の概要】 有名なポップスを題材にしたテキストに沿い、リスニングの練習、関連する文章の読解を行う。また TOEIC 語彙増強のために、分野別語彙集を学習する。時間があれば、頻出文法事項のプリント学習も行う。

【キーワード】 リスニング、語彙

【到達目標】

1. 自然な速度の英語、音の脱落やつながりになれる。
2. TOEIC の語彙を増やす。

【授業の計画】 1. クラスガイダンス 2. Unit 1 3. Unit 2 4. Unit 3 5. Unit 4 6. Unit 5 7. Unit 6 8. Unit 7 9. Unit 8 10. Unit 9 11. Unit 10 12. Unit 11 13. Unit 12 14. まとめ 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 角山照彦 『Power of Love-Pop Classics Best 12』 センゲージ ラーニング
- ◇ 佐藤誠司 『A Shorter Course in TOEIC Test Vocabulary Quizzes』 南雲堂

【成績評価の方法】 予習状況、授業参加、期末試験を総合的に評価する。

【再試験の有無】 有

【受講者のメッセージ】 テキストの予習 (読解、語彙) を必ずしておいて下さい。予習を前提としたペースで進めます。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221374>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 米原 .

英語 (English)

主題別英語 (夜間主 ((化生知)1 年, (化生知)2 年, 全 3・4 年))
Thematic English 貝沼 恵美・非常勤講師/全学共通教育センター
1 単位 後期 水 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『主題別英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

【授業の目的】 目まぐるしく変化する世界情勢を理解する上で、英語による情報を正しく認識する必要性は高まる一方である。本授業においては英語表現の能力を向上させ、また世界遺産を通じて社会が抱える問題を認識し理解することを目的とする。

【授業の概要】 DVD を視聴しながら、テキストに沿って聞き取りを行い、単語を確認して語彙を増やし、世界遺産を通じて環境や民族問題などを理解していく。

【キーワード】 世界遺産、リスニング、リーディング

【到達目標】

1. 自然なスピードで流れる英語の聞き取りに慣れ、それを正確に理解する。
2. 語彙力および読解力を身につける。
3. 世界遺産を通じて、異文化理解を深める。

【授業の計画】 1. Class Guidance 2. Contents1 3. Contents2 4. Contents3 5. Contents4 6. Contents5 7. Contents6 8. Contents7 9. Contents8 10. Contents9 11. Contents10 12. Contents11 13. Contents12 14. Contents13 15. Final Examination 16. Test Review

【教科書】 Hisakazu Tsukano ほか 『Exploring World Heritage on DVD』 成美堂、2,300 円 (税別)

【成績評価の方法】 出席状況、学期末試験、予習状況、毎回行う小テストなどにより総合的に評価します。

【再試験の有無】 出席率 2/3 以上、小テストの平均点が 60%以上の者についてのみ実施します。

【受講者のメッセージ】 毎日英語に接するように努めてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221373>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 貝沼 .

英語 (English)

発信型英語
Communicative English

(夜間主 (全 2~4 年))
パトリックジェフ・非常勤講師
2 単位 後期 火 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『発信型英語』)
(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前)の授業科目:『英語 (2)』)

全学共通教育 (2011) 〉 後期・【基盤形成科目群】・《英語》

【授業の目的】 The purpose of this class is to better prepare the student to express ideas and interact in both spoken and written English environments.

【授業の概要】 話題:紹介・物と場所の特徴・習慣・人の特徴・天気・家族・行事・町・買物・国々・臭味・感情 文法:be 動詞・代名詞・現在進行形・形容詞・前置詞・単数-複数・現時系・未来系・時間

【到達目標】

1. 教科書・プリントなどを使って英語を練習する。
2. できるだけ英語を話させる。
3. 毎週、短い作文を宿題として書かせる。

【授業の計画】 1. 講義:疑問視, 短い返事, 代名詞宿題:自己紹介 2. 講義:疑問詞, 時間の前置詞宿題:職場, 意見の教え方, 日課 3. 講義:指示詞話題:値段, 好き嫌い, 比較, 買い物 4. 講義:所有代名詞, 天気宿題:天気の作文 5. 講義:現在進行形, 限定詞宿題:家族 6. 講義:how, 副詞宿題:スポーツ, 運動 7. 講義:不規則動詞, 過去形宿題:連休, 趣味 8. 講義:there, 不可算名詞宿題:近所, 店 9. 講義:人のことの説明, 性格宿題:人の特徴, 顔 10. 講義:計画の作り方宿題:おもしろい体験 11. 講義:副詞, 形容詞, 接続詞宿題:国々, 町の特徴 12. 講義:can, could,may 宿題:健康 13. 講義:注文の仕方話題:レストラン, 食べ物 14. 講義:比較形, 最上形宿題:地理, 環境 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 題名:New Interchange Student's Book 1 著者:Jack C. Richards
出版社:Cambridge University Press

【成績評価の方法】 作文・態度・期末試験

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 英会話の心の準備をしてください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221375>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】
⇒ バトリック .

【備考】 旧カリキュラムでは授業科目:英語 (2)

3.2 《ドイツ語》 (German)

ドイツ語 (German)

ドイツ語入門

(夜間主 (全 1~4 年))

Introductory German

井戸 慶治・准教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 水 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『ドイツ語入門』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『ドイツ語 (1)』)

【授業の目的】ドイツ語の基礎を習得し、またドイツ事情に触れる。英語以外の外国語を学び、英語圏以外の外国の事情や文化を知ることは、偏りのない健全な国際感覚を持つために必要であり、知的な刺激を得るためにも有益である。ドイツはヨーロッパにおける日本の重要な貿易や文化交流の相手であり、かつて板東収容所でドイツ人捕虜が「第九」を初演したことなどにより、徳島との関連も深い。

【授業の概要】読章、文法説明、練習問題からなる総合的な教科書を用いて上記のことを学ぶ。知識を少しずつ確かなものにしてゆくため、授業のはじめに前回習った基本的な事項について小テストで問う。時として、視聴覚教材などを用いてドイツ事情、ドイツ文化を紹介する。

【キーワード】外国語、ドイツ語、異文化理解

【到達目標】初級ドイツ語を使って、簡単な文書を読み、旅行に行つて困らない程度のコミュニケーション能力を養うことと、ドイツ語圏の文化についての理解を深めること。

【授業の計画】1. 授業ガイダンス、前期の復習 2. 8 課、3 基本形、過去形 3. 同上、ドリル問題 4. 9 課、完了形 5. 同上、ドリル 6. 10 課、再帰代名詞・再帰動詞、前置詞 7. 同上、ドリル 8. 11 課、形容詞の格変化 9. 同上、ドリル 10. 中間テスト 11. 12 課、比較 12. 13 課、関係代名詞 13. 同上、ドリル 14. 復習 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】「行つてらっしゃい」(朝日出版社)

【成績評価の方法】中間試験、期末試験、平常点(小テスト、授業への取り組み方など)で総合的に評価する。

【再試験の有無】なし

【講師へのメッセージ】出席を怠らず、課題をしっかりと果たすこと。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221376>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ 井戸 (ido@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 火曜日16-17 時, 3号館1階学習支援室)

ドイツ語 (German)

ドイツ語初級

(夜間主 (全 2~4 年))

Elementary German

ヘルベルト ウォルフガング・講師/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1 単位 後期 火 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目:『ドイツ語初級』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『ドイツ語 (2)』)

【授業の目的】これまで学んだドイツ語のレベルアップ。外国語を習得するため必要な四つの能力、話す、聞く、読む、書くをどうとうに鍛錬し、よりの確かなドイツ語の表現を身につける。ドイツ語圏の文化と人々についての理解を深める。

【授業の概要】ドイツ語会話を通して、ドイツ語圏での文化、習慣、考え方、ライフスタイルなども紹介します。日常的に使う文、章、言い回しを中心にペアや小グループで会話練習したり、文法問題を解いたり、聞き取り練習をしたり、簡単な作文、文を作ったりします。

【到達目標】話す、聞く、読む、書く、基礎的なドイツ語の能力を身につける。

【授業の計画】1. オリエンテーション、前期の復習 2. 持ち物、指示代名詞、不定代名詞、否定代名詞の 4 格 3. 品物の感想、形容詞 4. 住居、部屋、所有冠詞 5. 部屋、家具の位置、前置詞 6. 時刻と日付、一日の生活、分離動詞 1 7. 曜日、月、誕生日、大学の年間予定、分離動詞 2 8. 大学の道案内 1、副詞(場所)命令形、小テスト 9. 交通手段、ドイツの大学、前置詞(方向) 10. 地図の読み方、道案内 2 11. 休暇の計画(活動、場著、期間、同伴者) 12. 手紙の書き方、語法の助動詞 13. 過去の表現、天気、季節 14. 日記、現在完了形、ドイツ語で履歴書を書く 15. 定期試験 16. 纏めと質疑応答

【教科書】プリントを配布する。

【成績評価の方法】学期末試験、小テスト、出席、宿題、授業への取り組み状況をもとにして総合的に評価する。抜き打ちテストあり

【再試験の有無】無

【講師へのメッセージ】居眠り厳禁

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221377>

【連絡先(オフィスアワー・研究室・Eメールアドレス)】

⇒ ヘルベルト (088-656-7145, wolf@ias.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 月曜日16.15h-17.30h (総合科学部1号館1階N06))

【備考】◇旧カリキュラムでは授業科目:ドイツ語 (2) ◇ドイツ語、本気の人歓迎。

4) 【基礎科目群】 (Category of Basic Science Subjects)

基礎数学

| | |
|---|----|
| 線形代数学 II ... (夜間主 (全 1 年))/ 桑原 / 後期 火 13・14 | 42 |
| 微分積分学 II ... (夜間主 (全 1 年))/ 水野 / 後期 水 11・12 | 42 |

4.1 《基礎数学》 (Basic Mathematics)

⇒ 水野 (建設棟 204, 088-656-7542, mizuno@pm.tokushima-u.ac.jp)
(オフィスアワー: 水曜 17:00 から 18:00)

基礎数学 (Basic Mathematics)

線形代数学 II

Linear Algebra 2

(夜間主 (全 1 年))

桑原 類史・教授/大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
2 単位 後期 火 13・14

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 今や線形代数学は、工学や社会科学の広い分野で大きな役割を演じている。また、微分積分学と並んで数学やその応用の研究を志す人にとって車の車輪の如く基本的な学問分野であり、工学の専門分野の修得には、線形代数学の理解は欠かすことができないことである。本講義では、数学の基礎的教養の一翼を担う線形代数学それ自体の実体的、構造的、法則的理解を目指すと同時に数理学の基礎的手法の修得を目指す。

【授業の概要】 本講義では、前期「線形代数学 I」に引き続き、線形代数学の理論体系 (線形構造) に焦点をあてて講義する。線形写像、基底等、前期に比べて抽象度の高い線形構造を扱うので言葉を正しく理解して使えるようになることが大切である。

【キーワード】 線形空間、線形写像、内積、固有値

【先行科目】 『基礎数学/線形代数学 I』 (1.0, ⇒22 頁)

【到達目標】 線形空間、線形写像の概念に基づき、ベクトル、行列の理解を深める。また、固有値や固有ベクトルを求め、行列の対角化 (標準化) が実行できる。

【授業の計画】 1. 導入、ベクトル 2. 部分空間、部分空間 3. ベクトルの 1 次独立性 4. 基底と次元 5. 線形写像 (1) 6. 線形写像 (2) 7. 線形写像と行列 8. 内積空間 (1) 9. 内積空間 (2) 10. 固有値と固有ベクトル (1) 11. 固有値と固有ベクトル (2) 12. 行列の対角化 (1) 13. 行列の対角化 (2) 14. 行列の対角化 (3) 応用 15. 期末試験 16. 総括授業

【教科書】 裕野敏博・原祐子・山辺元雄 共著 「理工系の入門線形代数」 学術図書出版社

【成績評価の方法】 期末試験 (70~90%) およびレポート、授業への取り組み状況 (10~30%) をもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 有り。ただし、期末試験の成績が 30 点未満の者は再試験の受験資格なし。

【受講者のメッセージ】 前期開講の「線形代数学 I」を履修していることを前提に授業が行われます。講義中は集中して講義内容の理解に努め、自宅で十分な復習を行ってください。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221378>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 桑原 (088-656-7226, kuwabara@ias.tokushima-u.ac.jp)

基礎数学 (Basic Mathematics)

微分積分学 II

Calculus 2

(夜間主 (全 1 年))

水野 義紀・准教授/大学院ソシオテク/サイエンス研究部

2 単位 後期 水 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目: 『基礎数学』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目: 『基礎数学』)

【授業の目的】 近年の工学諸分野の発展は、微分積分学の単なる形式的応用能力にとどまらず、基礎概念をしっかりと把握することを要求するようになっている。本講義では、高校で履修した数学と密接な関係を保ちつつ、1 変数関数の積分学の基礎事項の理解を深め、さらに、2 変数関数の積分の取り扱いに習熟することを目的としている。

【授業の概要】 基本的な初等関数の不定積分や定積分について講義する。さらに 2 変数関数については、2 重積分とその累次積分による計算法を講義する。

【到達目標】

1. 基本的な関数に対してその不定積分が求められる。
2. 簡単な 2 変数関数に対してその 2 重積分が求められる。
3. 2 重積分を利用して図形の体積や表面積が求められる。

【授業の計画】 1. 定積分 2. 定積分と不定積分 3. 不定積分の計算 4. 有理関数の不定積分 5. 無理関数の不定積分 6. 有限区間における広義積分 7. 無限区間における広義積分 8. 2 重積分 9. 累次積分 10. 積分順序の変更 11. ヤコビアン 12. 2 重積分の変数変換 13. 体積と表面積 14. 広義の 2 重積分 15. 後期テスト 16. 総括授業

【教科書】

- ◇ 教科書: 大原一孝著 『実例で学ぶ微分積分』 学術図書出版
- ◇ 参考書: 伊東由文著 『解析学 (上)』 サイエンスハウス

【成績評価の方法】 テストを実施する

【再試験の有無】 無

【受講者のメッセージ】 特になし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221379>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

5) 【学部が開放する授業題目】 (Subjects offered by Faculties)

自然と技術

| | |
|---|----|
| (工) 地域の環境と防災 ... (夜間主 ((建)1~4 年))/河口/後期 木 11・12 | 44 |
| (工) 生物工学概論 ... (夜間主 ((生)1~4 年))/中村/後期 木 11・12 | 44 |

自然と技術 (Science and Technology)

(I) 地域の環境と防災 (夜間主 ((建)1~4年))

Environment and Disaster Prevention in Tokushima

河口 洋一・准教授/大学院ソシオテクノサイエンス研究部
2単位 後期 木 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『学部開放科目』)

【授業の目的】私たちが暮らしていく地域の「自然環境」と「防災」関心や興味をもって暮らしていけるよう、それらについての視点・考えかたについて解説する

【授業の概要】私たちが安心して暮らしていくために必要な「自然環境」と「防災」について、徳島に関連深い事項を例にとりあげながら、1) 身近な自然環境の様子、2) どのようにして身近な自然環境を守ったり、修復したりしようとしているのか、3) 地震や津波への備え、4) 自然環境を保全しつつ災害にも強いまちづくりのあり方、の 4 つの観点から解説する。

【キーワード】徳島、自然環境、防災、地域力

【到達目標】自らが暮らす地域の自然環境の保全や防災がどのように進められようとしているのかを知り、その地域の中で暮らしていく者として、地域の自然環境の保全と防災に興味と自覚を持って暮らし続けられる。

【授業の計画】1. ガイダンス-足元からの安全と安心 2. 水環境の再生・修復 3. 自然再生と地域再生 / レポート 4. 「なぜ、環境を守らないといけないの?」 5. 「放っておいてくれ!」という人にも防災は必要? 6. "50 歳のあなた"を考えた環境と防災 7. 「地域力」-ソーシャルキャピタルの視点から 1 8. 「地域力」-ソーシャルキャピタルの視点から 2 9. 「地域力」-ソーシャルキャピタルの視点から 3 / レポート 10. 地震と地震動 11. 地震による被害 12. 地震被害の予測と対策 / レポート 13. 森林の洪水低減機能の仕組みと限界 14. 森林の水質保全機能、森-川-海の繋がり 15. 自然の力を活用した徳島県の省エネの取り組み/レポート

【成績評価の方法】到達目標の達成度は期間中に課せられる 5 回のレポートの総点 (各レポートは 20% ずつの重み) により評価し、評点が 60% 以上を当目標のクリア条件とする。

【受講者のメッセージ】本科目は本学科の教育目標の 1(1) に 40%、1(2) に 40%、1(3) に 20% 対応する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221380>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 河口 (308, 088-656-9025, kawaguchi@ce.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 金曜午後)

講述する。15. 微生物酵素の産業利用と機能開発について講述する。16. 生物工学概論のまとめ

【教科書】教科書は使用しない。適宜プリントを配付する。参考書は適宜紹介する。

【成績評価の方法】受講態度とレポートによって評価する。

【再試験の有無】無

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=221381>

【連絡先 (オフィスアワー・研究室・E メールアドレス)】

⇒ 中村 (機械棟 7 階, 088-656-7518, ynakamu@bio.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー: 水曜日 17:00-18:00)

自然と技術 (Science and Technology)

(I) 生物工学概論 (夜間主 ((生)1~4年))

Outline of Biotechnology

中村 嘉利・教授/大学院ソシオテクノサイエンス研究部
2単位 後期 木 11・12

(平成 19 年度以前の授業科目:『自然と技術』)

(平成 16 年度以前 (医保は 17 年度以前) の授業科目:『学部開放科目』)

【授業の目的】生物工学 (バイオテクノロジー) は、ナノテクノロジーや情報技術 (IT) と共に 21 世紀を拓く革新技術として期待されている。特にバイオテクノロジーは、医療、環境、食糧、資源、エネルギーなどの分野に広く活用されようとしており、人類の直面する諸問題の解決に大きく寄与し、人類の福祉に貢献するものと考えられている。バイオテクノロジーを支える生命科学から応用技術にいたるまで広く浅く学び、全体として生物工学に関する知識が修得できることを目的とする。

【授業の概要】生物工学科の各教員がそれぞれの専門分野を踏まえて、バイオテクノロジーの入門から最先端バイオテクノロジーまでのトピックスについてわかりやすく解説する。トピックスの内容は担当教員ごとに異なり、毎回の課題についてレポートを作成する。

【キーワード】バイオテクノロジー、遺伝子、タンパク質、微生物

【到達目標】生物工学の基本的な考え方や生物工学の現状が理解できる。

【授業の計画】1. 授業概要ならびに生物工学大系について講述する。2. 生体関連物質の両親媒的性質と界面現象が関与した生体コロイドについて講述する。3. 生物活性物質分子設計の技法を学ぶメディスナルケミストリー入門:生命の誕生と進化における合成の意味論について講述する。4. 地球環境における物質循環の根幹を支える微生物の役割と機能について講述し、バイオテクノロジーへの応用について講述する。5. 環境中の有害および有益微生物の制御方法に関する最近のトピックスを講述する。6. 各種疾病治療における抗体工学やワクチン工学の応用について講述する。7. 先端医療における生物工学の役割について講述する。8. DNA の戦略"発生と進化のメカニズム"について講述する。9. 生物資源の有効利用について講述する。10. 発育鶏卵を用いた種々の薬剤評価法について講述する。11. 抗生物質と細菌の多剤耐性機構について講述する。12. 細菌 (バクテリア) 研究の歴史について講述する。13. タンパク質合成と細胞および個体機能との関連について講述する。14. 遺伝子の発現機構について